

水源禪師法話集 21

(2013年2月23日 東京法話会)

2013年10月2日

一乗会



目次

水源禅師法話	1
密教とバガンスタイル	1
ミャンマーでの禅問答	3
ボロブドゥール・ピラミッドの本当の意義	7
ロシアの隕石とダンマ（法）をもつ大切さ	8
聖者たちも待っていた大涅槃界	10
護摩焚きと天文現象	11
旅での出会いとダンマを伝える重要性	13
奇跡の連続だった仏教の旅	19
質疑応答	25
ダンマを曲げることは最大の罪	25
それぞれに見合った瞑想法	30
本当のラベリング	30
中国禅宗第四祖 道信大師と丹田	33
いつ死んでもよいようにダンマをもつ	35
只管扶座	37
本当の師から公案を授かる	38
病気の対処法	39
悔しさの逆利用	41
瞑想、因縁、ダンマ	44
現代病の原因と対処法	47
丹田の瞑想から	49
仏教と他宗教	50
出家と在家	55
一切唯心造	56
末期がん患者への慈悲行	56
三十七仏	57
マインドフルネス	59
姿勢を決めるポイント	59
実践仏教（体験仏教）と経典仏教（理論仏教、哲学仏教）	60

水源禪師法話

密教とバガンスタイル

1200年前、ボロブドゥール¹が完成すると同時に、龍樹菩薩²（150頃-750頃）が浄土の国に行ったのですね。弘法大師様³（774-835）が中国に行って、2カ月ですべての法を受け取って、ちょうど1200年前。そして、1200年ぶりに日本で灌頂式としてオープン⁴となった。

その100年後（1000年前）にインドのお坊さんが（ボロブドゥールに）来て、1010年あたりにリンポチェ⁵が来て、そこからチベット仏教が始まったと、チベットの経典にも書いてあります。



ボロブドゥール

¹ インドネシアのジョグジャカルタ郊外にある世界三大仏教遺跡の一つ。近年の研究で「密教の曼陀羅を表している」といわれている。

² Nāgārjuna（ナーガールジュナ）：龍勝、龍猛とも訳される。南インドのバラモン出身の僧。大乘仏教の大成者で、中観学派の祖。「八宗（すべての大乘仏教の宗派）の祖師」「百本論師」などとも称される。

³ 空海：讃岐（香川県）出身の平安初期の僧で、真言宗の開祖。804年に入唐して、恵果和上から胎蔵界と金剛界を両翼とする密教を受法し、2年後に帰国して開宗し、高野山金剛峯寺と東寺を道場として真言の教えを弘めた。

⁴ 平成24年10月、弘法大師開壇1200年を記念して、京都神護寺にて総本山泉涌寺長老 上村貞郎大僧正を大阿に迎え、24日三昧耶戒、25日胎蔵界受明灌頂が開壇され、水源禪師も投華得仏にて結縁した尊の印明等を授かった。

⁵ チベット語。本来「如意宝珠」の意味で、傑出した仏道修行者に与えられる尊称。

ボロブドゥールに行って 13 年間、修業して、チベットに帰って 14 年で死んでいかれた。200 年前に日本へ密教がすでに来ていたのが、本家本元だったのですね。チベットには金剛界はあるけれども、胎蔵界がなかった¹。

たぶん 1 代目のリンポチェは、バガン²を通過していったと思いましたね。バガンの最高のブッダは「マハムニ」といって、鎧を着ているのです。密教では「鎧を着せる」という、ちゃんと行がありますから。ほか、テーラワダ（南伝）ではない。

すべてバガンは「インカクロス」といって、四角い中に四つ出ている、その方式でもって建物ができています。バリ島に行ったときに、何でここにインカクロスのサインがあるのか、どうしてまたこのバリ島には「卍の逆文字」をお宮に張るのかと。

密教の行をやるとき、左右対称に左をやったら必ず右なのです。平面じゃない立体なのです。1 万年前の昔よりラダックの方向からカイラス山³に行くルートですが、どうもチベットは直接インドから上がっていかなかったようですね。

ロロジョングラン⁴に行ったときに、ヒンズーのお寺だというけれども、形態はバガンスタイル⁵でした。四つの方向があって飾られている仏像がなくなりましたが、完全にバガンスタイルで建てられていました。

（私は）ヒンズーのお寺はインドで入っているので、分かっています。そのとき、私が髪を剃ってヴィブーティー⁶を額に付けて、絶対、普通一般の人が入れない奥殿まで見ているから。全然、作り方が違うのですね。

ヒンズーはそう簡単に建て方を 1000 年、2000 年と変えないのです。形式をずっともっていきますからね。

¹ 胎蔵界は『大日経』に基づき、金剛界は『金剛頂経』に基づき、共に両界（両部）を形成する。『秘蔵記』には「胎蔵とは理なり、金剛とは智なり。界とは身なり。金剛を持する者の身なり。身すなわち聚集の義なり」とあり、胎蔵界は理を表わし、金剛界は智を表わし、共に大日如来の智慧と慈悲の両面（両部）を示したものとされる。

² ミャンマーのマンダレー管区にある地名で、旧名はパガン。アンコール・ワット、ボロブドゥールとともに世界三大仏教遺跡の一つと称される。ミャンマー屈指の仏教聖地で、仏塔の数は 3000 を超えるといわれている。

³ チベット高原西部（ンガリ）に位置する独立峰。

⁴ Candi Lolo Jonggrang : 別名「Candi Prambanan」（チャンディ・プランバナ）。インドネシアのプランバナ寺院群の中でも高くそびえ立つ、ジャワ第一の遺跡。

⁵ ミャンマーのバガンにあるティーローミンロー寺院の建築様式。

⁶ 「神聖灰」のことで、サンスクリット語では「力、能力、偉大さ、繁栄、威厳、荘厳、光輝、灰等」を意味する。

そういうことで、今回の旅でカンボジア、アンコールワット¹も密教の聖地だということが分かりました。巨大な建物のすべてが、密教スタイルのお寺で十字に組んでいました。1000年前、中国も密教だったけれども、驚くべきことに、今でもスリランカでは、密教の秘伝の行法をちゃんとやってすごい力をもっています。

ミャンマーでの禪問答

一番よかったのはミャンマーでしたね。ミャンマーでパオセヤドー²と直接お話しして「テーラワーダも大乘も密教もすべて一体になっています、一緒です」と言ったら、「全くそのとおり」と、一発で回答してくれました。

こちらでは、スマナサーラさん³が「色即是空はあるが、空即是色はない」と、ベストセラーを出しているのですが。

結局、私がミャンマーのパオの総責任者ウ・レヴァタ長老と5年前、本当の行を終えたかどうか、という最後の詰めをやったわけなのですね。150人の前で私が質問したのは、やはり「アパバッタ・パバッタ（無流転・流転）とスンニャータ（空）の関係を説明してください」と。

これはこういうことなのです。「色即是空、空即是色の因果関係、カルマ（業）の関係を説明してください」と。「それを説明してくれたら私はここに残りますと。説明できなかつたら私はここを去ります」と。11カ月目で、私が言ったわけなのです。

今回、分かったことは、パオでは誰も11カ月で行を終えた人間がいなかったものだから仰天してしまって、質問もいまだかつてしていなかった質問で、逆に本当にスンニャータのことを20人の行を終えた方々から質問をされるわけです。本当に通過したかどうか確かめられるのです。

パオ以外でいくら終わったと言っても、パオに行き行って試験を受けなければいけないのです。4カ月間チェックを受けます。それ以外はパオでは認めない。あとは個人の指導法ということになります。

そういうことを今回、明快にパオの総本山から言われて、「どうも日本では非常に誤解されている」と。結局、将来の日本のことを思って、一応こういうふうにお話ししなくてははいけないということなのです。

¹ カンボジアにあるアンコール遺跡の一つで、遺跡群を代表する寺院建築。

² ウ・アチンナ長老：1934年生まれ、10歳で出家。アッガマハー・カンマターナの位を持ち、ミャンマーのパオ森林僧院院長。ミャンマー仏教界長老。

³ アルボムツレ・スマナサーラ長老：1945年生まれ、13歳で出家。スリランカ上座仏教（テーラワーダ仏教）長老。日本テーラワーダ仏教協会長老。

ということは、仏法を曲げて教えた場合には、次の因果関係で大変なことになるのです。だから私のとても親しくしてくれた方は、全部パオの教科は終わったけれども、空を通過できなかつたのですね。空を通過できないがゆえに教える気はなかつたと。今でもマレーシアの山に籠もって、一心不乱に行をやっています。

最後に質問を受けますからね。逆に私は質問を掛けたわけです。そのとき、ウ・レヴァタ長老は回答できなかつた。「3日待ってくれ」ということで、パオ総本山全体が仰天しまったのですね。だから、5年後に今回、行ったときでも、昨日のように私を覚えているわけなのです。

だから、私の言った言葉というのは、ミャンマーでは大変な重要な重きをもつみたいですね。ま、他の国では分からないですけども。

【ウ・レヴァタ長老】私が言ったように、あなたは3時間ニミッタ¹（禪相）を見続けるよう教えていますか」「【水源師】それはできないことです。外国では時間的に不可能です。でも、それを1時間、見続けるよう教えていますよ」「【ウ・レヴァタ長老】誰がそんなことをしているのか」

ということは、「本当の法がここで伝わっていない」ということ。私自身が口をふさいだら、皆さんはその方向にいつまでもいつまでも行くということは、次のカルマで私が責任をとらなければいけません。大変なことなのです。

だから、前世で間違った先生に教えられて、そのカルマ（業）のおかげで、今世において空が通過できないわけなのです。彼は一つも間違っていないくて、先生の言うとおりにやっても、カルマの法則でそうになってしまうのです。

今回、非常に私が興味を持ったのは、レディセヤドー²の『Intercept Kamma』。「アングリマーラ³、999人殺して阿羅漢⁴になった」と。結局、お釈迦様がパーッと出てきて、「Intercept Kamma」ですね。止めて阿羅漢にしたわけです。「999人は全身供養した」ということで、すべて天界に生まれるか、すごい行に達しているか、もう涅槃にいつているか、という999人をすべて助けてしまったのです。

「殺されて損じゃないか」って、このめちやくちやな世の中で、私たちは素晴

¹ 通常は強い光が現れ、その光が輪になって静止した状態であるが、段階がある。

² Ledi sayadaw (1846-1923) : ミャンマーの有名な僧侶で、伝統的なヴィパッサナー瞑想の復活に努めた。ダンマに関する多くの著作がある。

³ 釈尊の弟子の一人。パーリ語経典の中中部『アングリマーラ経』及び、漢訳大蔵経の阿含部『央掘摩羅経』などで言及される。

⁴ 四向四果(預流、一來、不還、阿羅漢)の一つで、煩惱をすべて消滅させて再び三界に転生せず、永遠の安らぎを獲得した涅槃の境地。

らしい天界のような素晴らしいとこにいて、こうして法を読めるとか、聞けるとか、こういうことはめったにないことなのです。

スマナサーラさんが「色即是空はあるが、空即是色はない」¹と。ウ・レヴァタ長老が「その質問は私が教えた教科書の中にありますか」と。

私は「はいあります。(直接パオで教えられている、絶対に見られない極秘の経典の中で)最後のページの下から5段目です。『色即是空、空即是色』これはいかにも。因果関係、カルマ、スンニャータとの関係を説明してください」と質問しました。それでストップしたわけです。

結局、南伝では残念ながら「五蘊皆空」。そこでストップしてしまうけど、『般若心経』では、それからさらに進めて「色即是空空即是色」と、教科書に書いてあるのです。それが150人の前で、一針の聴聞でみんな聞いていますから、今回5年ぶりに行って帰ってきたということで、騒然としたのですね。

だから、私がパオセヤドーと直接談判して、こういう話とか、普通はできないのです。「【パオセヤドー】はいそのとおり。お前の好きなようにやってくれ」と。

また、あちらの人は正直なのですよ。ミャンマー最高級の **Teacher's Position** の人が、私に「どういうふうにサマタ(止・禅定)をしたらよいですか。ヴィパッサナー(観)で非常に不安定になっています」と聞いてくるのです。そういうふうにトップ階級はウソつかない。

ところが、それをそうじゃないふうに伝えてくるというのは、通訳の問題があるのか、本人かそりゃあ分からない。

私はパオセヤドーに「実際はこうであるけれども、私はこの手法で教えます」と。「【パオセヤドー】それでよろしい」。それでよいわけなのです。私が「パオ正法で教えています」と言ったら、大変な間違いになります。

だから言ったでしょう。私は禅法も使い、南伝も使うと。そういうことで、やはり今回、明快になったから、日本を間違った仏道にもっていけば、大変なことになりますからね。

私が一番、不思議に思ったのは、どうして精神界の方々がオウム真理教の出たときに「あれは間違いである」と、誰一人として言わなかったのか、非常に不可思議に思っています。

お釈迦様は「悪いことをしている人を放任するということは、悪い因果を造る」

¹ スマナサーラ長老は自著『般若心経は間違い？』(宝島社)等の中で「空即是色は間違い」と主張している。

とおっしゃっています。

言わないということが美德なのか、結果的には、それによって死刑犯にされた方もいるのですね。それは現世の問題でそういうことも発生するし、たくさんの方が間違っただしょう。

ただ日本に伝えられないから、それを私が「ちょっと加工して教える」、これは間違い。そういうことがあやふやであって教えた場合、法というのは光のスピードよりも速いですからね。これがずうーっと行った場合には、また戻すのが非常に難しくなってくる。実際問題として発生しているのです。

だから、よく「パオの行を全部終えたのだけれども、通過できません」と、私に相談に来るわけなのですね。次から次とパオのトップ級の人と対談するのです。

行法について、「あなたの教えるのはどういう方法で教えていますか」と、すべて聞いてきます。知りたいわけなのです。「いかにして瞑想を学ぶ人に正確に教えたい」ということがあるからなのです。

だから、スリランカに行っても、「禅法を学びたい」という人がたくさんいました。禅というのは日本では分かりませんが、やはり私を見て、ミャンマーでは驚愕したみたいですね。11カ月で修了し、その教科書の中で答えることができなかった問答でバーンと言ったときに、ミャンマーでは皆、驚愕しました。

そして最後、今回3回目、「日本の状態が今こうである」と言ったら、パオの総事務局長が仰天してしまって、すぐに夜8時なのだけれど、ウ・レヴァタ長老をたたき起こして、それからまた「ヴィナヤ」（戒律）について1時間の問答。

「ヴィナヤ」というのは、それぞれ国によって変わると、彼も韓国に来て体験しているわけなのです。

2600年前の「ヴィナヤ」は、南方では守れるかもしれないけれど、他の国ではできないということを彼もとうとう分かって、「それでは、瞑想の一番大切な禅・サマタのダンマ（法）をどういうふうにして教えるのか」。

彼の手法はサマタをもたせるニミッタを長時間、3時間。ただし、パオセヤドーはミャンマーの人が学ぶ場合、「5時間、要求する」と言っていました。全然違うのです。

私の場合は外国から行ったから3時間半、結果的に二つ行を一緒にこなしていかなければいけないから、6時間半、座らされましたから。私は全然知らないで、パオに実際、在家から入っていったので、あまりにも行が進むものだから、教科を二つ一緒にやらせるわけ。

ということは、ダブルで長時間、座らなければいけないということ。長時間、

座ると、必ずニミッタが破れると。そういう状態を期待していたみたいです。

ところが、全部やっちゃって、それで禅の恐ろしさが初めて分かったのです。禅はどういうふうな力があると。だから、私がミャンマーでひとこと言ったら、日本の比ではないようです。

それに反することを言う場合、質問するか検証しなければいけない。ということは、ミャンマー以外のことは、ほかの国がどうなっているか分からないから、他の人が同じことをやろうとしても、それはやはり無理があります。

ボロブドゥール・ピラミッドの本当の意義

ただ、今は 1200 年、本家本元、日本に、ダライ・ラマ法王¹が来たら、頭を下げている状態ですね。本来は逆なわけなのです。

ダライ・ラマ法王がどうしてもボロブドゥールに来たいというのは、1 代目がそこから来て、チベットにきているからなのです。でも、いまだに行けないと。私の場合はずんなり行って、そこで法灯を燃やすことができたわけです。

そこで一緒に座られた方は運が良くて、「大涅槃界」に入ったのです。なぜかという、そこには四つの火山があります。結局、「ナーマ・ルーパ」(名²・色³)というのは、行をする場合には非常に力を要求されます。

その力を要求される場合、外敵エネルギー、四つの火山に囲まれて、すごいエネルギーの中でやるもので、そこでまた太古の巨大な智慧である、巨大なピラミッドというのがあるのですね。

ピラミッドは今も活動しています。写真を写したら一時的には見えないはずなのに、ちゃんとX線みたいに中が見えるのです。

また今、有名なマヤ文化⁴の滅亡、マチュピチュ⁵のピラミッドあるでしょう。石で見えないはずなのに、写真を撮ったらトップからエネルギーが発射しているのです。

¹ ダライ・ラマ 14 世：1935 年生まれ。世界的に著名な仏教指導者の一人でチベット仏教ゲルク派において最高位の仏教博士号(ゲシェ・ラランパ)をもつ僧侶。

² Nāma (名)：本来「向く」という意味で、概念に向かって働く精神的機能のこと。心と心所を合わせたもの。

³ Rūpa (色)：変化する物質。

⁴ メキシコ南東部、グアテマラ、ベリーズなど、いわゆるマヤ地域を中心として栄えた文明。

⁵ アンデス山麓に属するペルーのウルバンバ谷に沿った、高い山の尾根(標高 2430m)に所在する、15 世紀のインカ帝国の遺跡。



ボロブドゥール・ピラミッド

ロシアの隕石とダンマ（法）をもつ大切さ

つい最近、ロシアに隕石が落ちた¹でしょう。あれは落ちるべきものでないものが落ちたのです。「2012DA14」²とって、14の隕石が地球のそばを通過しているのだけれども、これは去年2012年2月に発見されました。

ところが、おかしなことに「Shoe Maker levy 9」³（時速216000 km）とって、今から15年前、1994年7月に木星に追突したのです。そのとき、すべての物理化学者は「ただ雲の中に入って爆発しないよ」と。ただ一人だけの科学者が「Kinetic Energy（運動エネルギー）で大爆発を起こすはず」と。

ところが、原爆以上の爆発で光も出したのです。それで天体望遠鏡もつくり、全宇宙のアステロイド（小惑星）を観察しているNASAが「2012DA14」を必ず発見するし、その起動も予測できるのに、なぜ落ちたか。そのときロシアはすぐに分かって、核空爆機をすべ発進させたのですね。危機一髪だったのです。

グアム、アラスカ、ノルウェー三つにはHAARP⁴（ハープ）を持って、「ヴェッセルビーム」とって、隕石を物理的に地球に近づけさせることができる。実際この地球は電球で200Vの重力エネルギーで自転しています。ビームを発生してロシアはすぐに分かったから、全滅寸前だったのです。

¹ 2013年2月15日（YEKT）9時20分26秒、ロシア連邦ウラル連邦管区のチェリャビンスク州付近で発生した隕石落下。

² アテン群に属する地球近傍小惑星の一つ。2012年2月23日にスペインのラサグラ天文台で発見された。

³ シューメーカー・レヴィ第9彗星：1994年に木星に衝突したことで有名。

⁴ 高周波活性オーロラ調査プログラム：高周波を使用することにより電離層の挙動を観察することを目的としているが、詳細は米政府の機密となっているため不明。

ということで、私は皆さんにいつ死んでもよいように「ダンマ（法）だけはもって死んでください」と言っているわけ。もし「色即是空」で終わった場合には、この次で生きたときにそこでストップかかって、そのままでは進めないし、これは本物ではないから、次の世でも法に達しようとしても、うまくいくわけがない。

ということで「正しい教えをできるだけ自分で検証したり、文献を読んだりして見つめてください」と言っているのです。

今回も「テーラワーダ（南伝）ではタントラヤーナ（密教）はないし、日本の方では最高」と思っているのですけれども、全然、違うのですね。

やはりこちらスリランカではタントラヤーナの秘伝をパーッと私に渡すし、また奥義もちゃんと教科書にあるのです。使い方もあります。大変な秘法で、これは原爆みたいなもので、教えることができません。悪用されたら大変なことになります。

1500年前にポルトガル・ヴィハーラというところに、そこの国の王様が『金剛般若波羅蜜多経』を持っていたのです。ちょうど達磨大師¹が『金剛般若波羅蜜多経』を非常に重要だと指し示して、ネパールのパミール高原を通過して、『金剛般若波羅蜜多経』を指して、インドに帰って往ったのです。

ただ一般的に分離しやすいように、テーラワーダの教えとか、大乘の教えとか、密教とか、いつているけれども、今回、分かったことは、一体化していました。ピラミッドのように、本当に一体化していました。どの手法をとってもよいから、「一つでもダンマをもってください」と。

「2月19日、この地球が一瞬にして滅亡する」という状態が実際、発生したのです。この情報は世界に回っているけれども、プーチンは「国防長官に発表するな」と言ったけれども、彼自身の責任で「いや発表します」と。

HAARP あるでしょう。あのそばにいと、電磁波で頭が焼けるから、頭がおかしくなるのですよ。2 MHz（メガヘルツ）から4 MHz。今有名な中国の戦艦が日本の飛行機や戦艦に2 MHzから4 MHzを当てたという。HAARPのそういう種類を使っていると、日本はちゃんとキャッチしている。

ノルウェーで宇宙船みたいな渦巻みたいな光がパーッと出たでしょう。あれはHAARPの実験をして、ああなつたみたいですね。それを「UFO」とか言われたみ

¹ 菩提達磨（ボーディダルマ）：中国禅宗の開祖。出自に諸説あるが、南インドのバラモン出身で、6世紀初め中国に渡って各地で禅を広めた。嵩山少林寺で面壁九年の坐禅を修行して「壁観（壁に向かって坐禅内観すること）婆羅門」と呼ばれたといわれている。

たいですが、中国も同じ現象で 2 MHz から 4 MHz と知っている。

「アメリカが攻めてくる」と言って、ロシアがすぐにボタンを押して全部発動したのですが、最初は「あの comet（彗星）は 10 t（トン）の重さ」ということではなかったのです。それが NASA では「7000 t」。今、最後では「17 m で 12000 t」かな。その「2012DA14」が地球に落ちた場合には、全地球の原爆が爆発しても足りないエネルギー。ということは、私たちは全滅してしまう。

次にいくのは、この肉体ではなく「心・ナーマ」が他の生命体に入っていく。そのときに一番大切なのは「ダンマをしっかりとつ」ということ。間違いなし。

こうして私が一瞬にお話ししているでしょう。このとき、一刹那にタタタターッと七つの記録が刻まれます。一つ一つが無量のドアにつながって行って、七つの大きなドアがパーッと開くわけなのです。

だから、しょっちゅう瞑想をして、心をウペッカ（捨、静寂）にすれば、こういうダンマの世界を思い出した場合には、その素晴らしい世界に入ります。心というのはコンピューターみたいに実に物理的なのです。

だから、そこでこれが「この手法はこうである」「この手法はこうである」と認識したら間違いはない。それを全部「これだけは正しくて他は間違いだ」とか、ごっちゃになった場合には、もう正しいダンマの方向に行けなくなる。

こういうことで、私の手法は「いかにして皆さんにダンマをもたせるか」ということに力を入れていきますと、パオセヤドーももちろん一回で納得して、やはりウ・レヴァタ長老とも 1 時間にわたる談義で、彼も最後に納得して「よろしい」ということになったのです。

ということを報告できるというのが、一番、素晴らしいことなのです。

聖者たちも待っていた大涅槃界

結局、高野山にお願いして房総半島で護摩焚きの法¹を教えてもらって、実際、護摩行をやったのがすごかったのは、去年だけがバガンの 11 月 28 日とボロブドゥールの 12 月 28 日、2 回満月が発生したことです。

28 日は不動明王の日、護摩焚きをする日なのです。そういう満月が発生したのは去年だけで、その前もないし今年も一回もない。

バガンでやったときは不思議な月と、その前に星二つが正三角形に並び、その次の日は逆三角形になり、天空に異変を起こしました。

¹ 真言宗智山派の不動明王護摩供。

その後、ミンブ¹に聖者を訪問しました。聖者たちは、普段は一人1年に1回、予告なしに現れるだけが、今までの習慣だったようです。

その日は何と、1046歳のウ・コビタ比丘、758歳のウ・パンディッタ比丘、561歳のシン・オッタマヨ比丘、204歳のバドゥー・タン・アンが「お待ちしております」（と言って出てこられました）

この方々は弥勒菩薩に会うがために、ただただ長寿の秘法の行をされていたということを聞いていたのです。

なぜかという、ダライ・ラマさんがいるインドのダルマラーサで、チベット仏教を勉強されたお坊さんが、4年間ただ「三十七菩薩」を修行させられたのだそうです。その後、サガイン²にあるレディセヤドーの経典を読んで「三十七仏に出遇えば、弥勒菩薩と遇ったことになる」ということが書いてあって、「ボロブドゥールの護摩焚きの中に『三十七仏』³をマントラで唱えなければいけない」と、ハタと気が付きました。

それをやってすごかったのは、23日に「大涅槃界」が発生したことです。このことで、聖者たちの「お待ちしております」という言葉が、初めて明快に理解できました。

護摩焚きと天文現象

その後、28日満月のお月様が非常に光っていたのです。カメラで撮ったらバーンと回ってflashing（点滅）するのです。

（※ You tube 掲載：<https://www.youtube.com/watch?v=TFtWB-1X4iQ>）

護摩焚きが始まる前は「もう始まりますよ！」と、ゴロゴロと雷で知らせてくれて、終わったときには稲光が10km以上にわたって天空を覆い、数時間ずうっと点滅を繰り返しながら光り続けていました。

というふうに、私たちが頭で考えているこの世界と、実際ほかに地球を守っている生命体がいるというみたいですね。今回はっきり分かりました。

¹ ミンブ（Minbu）県：ミャンマー中部のマグウェ管区に属する都市。

² ミャンマー北部サガイン管区の都市。エーヤワディー川沿岸に位置し、対岸の都市マンダレーの南西約15kmに存在する。エーヤワディー川中流域の政治・経済・交通の中心地で、多くの僧院を擁する宗教都市でもある。

³ 大日、阿閼、宝生、無量寿、不空成就、金剛波羅蜜、宝波羅蜜、法波羅蜜、羯磨波羅蜜、金剛薩埵、金剛王、金剛愛、金剛喜、金剛宝、金剛光、金剛幢、金剛咲、金剛法、金剛利、金剛因、金剛語、金剛業、金剛護、金剛牙、金剛拳、金剛嬉、金剛鬘、金剛歌、金剛舞、金剛香、金剛華、金剛燈、金剛塗、金剛鈎、金剛索、金剛鎖、金剛鈴（以上、「如来」「菩薩」の敬称略）。

今回、最後の山の頂上でのスリーパーダ¹で満月の護摩焚き。普通は頂上でやらせてくれないのですが、ちゃんとそこで護摩焚きをすることができました。ここでは太陽を見るのが、朝でも夕方でも非常に難しいのです。

なぜかという、2243m でそこだけポツと高いから、いつも雲に囲まれて、上がったら、なかなか見ることができないのです。

以前、日本山妙本寺という日蓮宗系のお坊様が案内してくれたときに、「35年間毎日、上がって、1回だけしか見ることができなかつた」と言っていました。

私を連れていってくれたとき、雲の中から光って見えましたが、今回は何と護摩焚きやっている最中、雲に囲まれているのだけれども、やっている方向は、ぼっかりと青い空がいつまでも出ていました。終わる 20 分前から空全体が晴れてきて、満月の月そして太陽、同時に空中に上がりました。

そして、最後に、普段お釈迦様の足跡はカーテンが閉まって見ることができないのだけれども、わざわざ開けてくれて、お釈迦様の足を洗わせてもらいました。

今回はっきり分かったのは、天界と人間界は一体化しているみたいです。

結局、ロシアが発動させたけれど、ボタンをすぐ止めたと、宇宙にビームを当てるといふ、分からない科学的な知識で、そこまでやってしまうのですね。

そばにいる人間は頭がおかしくなります。グアムで 14 人が殺傷された事件も、そこに HAARP があるわけなのです。私の同僚でアメリカ空軍に勤めた人が、「すべて私の同僚は頭がおかしくなってしまった」と言っていました。それを見てやめて、トロントに勤めたということです。

というふうに、この恐ろしい社会と皆さんが報告されている世の中とは、かけ離れているから、まあそういうことばかり知る必要もないのだけれども、一瞬にして 2 月 15 日、ポツと消える状態にあったのです。

ロシアもそうだけれども、アメリカの場合は、なぜか発生した場合、コロラドに巨大な地下で、10 万人だけが何代にわたっても放射能が消えるまで生存できる場所があるみたいです。一部の人間がそんな恐ろしいことばかりやっているのですね。

「明日がない」「この生命体でおしまい」と思っている、それは違います。この生命体は次から次と流転していくから、一番大切なことは、「ほんの小さいダンマ(法)でもよいから、本当のダンマをもってください」。

だから、パスカル²が言ったのです。「私は真理を知ることができたならば、今、

¹ スリランカの聖山。毎年、日の出を拝もうと、多くの巡礼者が山頂を目指す。

² ブレーズ・パスカル(1623-1662):フランスの数学者、物理学者、哲学者、キリスト教神学者。随想録『パンセ』の「人間は考える葦である」という一節は有名。

地球が破滅しても、私は幸せだ」と、そのことを言っているのです。彼は「生命体が永遠に続く」ということが分かっているのです。地球が滅ぶか滅ばないは関係ないと。



2012年12月28日 満月の護摩焚き

旅での出会いとダンマを伝える重要性

ということで、今回、日本の護摩焚きを終えて韓国に行って、幽霊（餓鬼）にとりつかれた人、恨みを買われた親族に、行法をもってサーッと取ってあげて、やはりサマタの禪定に入れば、すごい力を発し、そういうこともできるのです。

ミャンマーでも12年の比丘が幽霊にとりつかれて、ところがテーラワーダ（南伝）では幽霊何という言葉は知っていても言わないのです。

だから、53人の人が「ピリタ」というタントラヤーナ（密教）をはっきりは分からないけれども、少し知っていて、その行法をやって幽霊を取ろうと思ったら、逆に体の中に入ってしまったのです。

本当に正確に知っているのはスリランカだけれども、絶対に教えない。この方は42年の比丘の生活をしているから、やはり40年クラスは、そういうことを教えられるみたいです。10年、20年、30年でも無理みたいです。

だから、実態と本当に何が起きているかは全く違うわけで、また一般の人も知る必要はないかも知れないけど、今こうして皆さんに報告できるということは、やはり日本の将来を考えて、私が言っているのです。

というのは、「オウム真理教みたいなことを二度と発生させたくない」ということです。それが間違っ「正しい」と思ったときに、ついていった本人もダメだし、周りの人もダメだし、国自体がおかしくなってしまう。

ミャンマーのある村では、一週間に1回、村の人が集まって瞑想をするのです。泥棒がない。おばあちゃんが92歳だけれども、肌つやもよくて60歳くらいにしか見えなかったです。そこにはお医者さんもない。「平安・ウペッカ（捨、静寂）」の世界。

何もかも知ってダンマ（法）だけを聞くのが皆、楽しみにしています。そこにTeacher's Classの人がお金も一銭も取らずに、そこに行って教えるのです。

すごい行者がいるのだけれども、外には出てこないのです。やはり外に出ればいろいろなことに会おうし、出たくないのしょうね。「なぜ外に出ないのですか」、「いやここにいます」と、素晴らしい行者は言って、出ようとしなないみたいです。まあ言葉のハンディーもあるのだろうけれどもね。

まあそういうことで、スリランカではそういう奇跡があつて、その後、ディンブラガラというところに行って、そこはお釈迦様が2回目にスリランカに渡ったとき、そこに500人の阿羅漢とお釈迦様がいて暮らしたらしいです。

その土地を私に「どうぞ使ってください」という方がおられました。もしそこにずーっといたら、私は出られないでしょう。（笑）150万坪。「お金もないし何もなし」、「いや全部こちらで用意しますから」。

お釈迦様がいたから、それは素晴らしいところなのですが、「私が日本とか、いろいろな外国に出て行って、皆さんにダンマを伝えることの方が重要です」と。

そして、印幻先生¹には、きつく言われて、「森の中に一人だけで楽しんでダメですよ。町の中に住んで、ずうっと世界の中を動いてください」という天命があるから、こうして動いているのです。

¹ 蔡 印幻（チェ インファン）師。本名は蔡 澤洙（チェ テクスウ）、法名が印幻。1931年生まれ、18歳から曹溪宗の禅を修行、40歳で東京大学博士課程に入学、文学博士の学位を取得。東京大学で文学博士を取得した最初の韓国僧侶。韓国の東国大学校仏教大学学長も務め、編著『新羅仏教研究』に中村 元博士、水野弘元博士らも寄稿。水源禅師の師。

ブラックホールを実際、数学的に検証されたホーキング¹は、彼の計算によれば、「高度に発展した地球文明は、宇宙的にはいつ滅びてもおかしくない時期に来ている」と言う。実際 2 月 14 日に、こういう事態が発生する状況に陥る寸前まで行ったみたいですよ。

「この全宇宙には大体 2 億の地球生命体がいる」ともいわれています。その中で「本当のブッダに出遇って、本当の法をいかにしてつかむか」というチャンスが皆さんにあるわけなのです。

2 月 12 日はローマ法王が辞めました。すごい内部のことが起こっているのです。そのことも言ったら、また皆さん仰天してしまうでしょう。10 億の民が 2000 年間、信じたものが、根底から完全におかしくなってしまったようです。

「過去も未来もない」、いろいろなことが積み重なって、めちゃくちゃになっているわけです。そのピウス 4 世²（ローマ教皇）が「これから修道院に入って、一生、遮断して暮らす」と言う、私もそういう贅沢ができればよいなと思ったけれども。（笑）それが本当の贅沢だと思います。

教皇は修道院に入って「一切、罪を犯したくない」ということで、その後でローマカソリズムに非常に間違いが起こり始めた。

ミャンマーの比丘たちが非常に苦勞しているのは、沙弥・沙弥尼³は 10 戒だからよいのだけれども比丘になれば 227、韓国の比丘尼には 350 の戒律があります。

大乘の方は、やはりうまく避けてやろうとする方法をもっているけれども、2600 年前のおりに行おうとするので、ミャンマーの比丘は 1000 年前に比丘尼がいなくなっても、「比丘尼に悪いこととしてはいけない 10 の戒律」を真剣に守らなければならない、という 227 の戒律があります。

それが頭に 24 時間あるものだから、逆にサマタ（止、禪定）がなかなかできない。それで非常に悩むわけです。

一足あげることでも蟻を踏まないとか、口のきき方とか、社会の体制によって変わると。変な話だけれど、227 の戒には事細かに、おしっこの仕方、トイレの入り方もあります。

また、その中でやっているから何ともないけれども、それが外国に出た場合には到底、手法は使えないし、また、24 時間それが頭にあるものだから、間違いを犯さないようにと叩き込まれているものだから、逆にそちらの方に心が行ってし

¹ スティーヴン・ウィリアム・ホーキング（1942-）：イギリスの理論物理学者。

² 本名：ジョヴァンニ・アンジェロ・メディチ（1499-1565）。

³ 10 戒を受けた 7 歳以上 20 歳未満の出家のもので、男子を「沙弥」、女子を「沙弥尼」という。「見習僧」「息慈」などと訳される。

まうようです。

「Sati・念だから、本当の瞑想の方になかなか入れない」という災いが発生していることが多々あります。

6年前に私がパオに行ったときに知り合った方がマレーシアに来て、「【水源師】やあ、あなた修行を終えて、もう教えているのですか」「【知り合いの方】いやいや」「【水源師】じゃあ、どこまでいっているのですか」「【知り合いの方】ニミッタ（禅相）もまだ見ていません」と。

でも、この方は本を読んでダンマを知っているのです。ダンマの経典を読んで覚えているからといって、信用ができているとは全然、関係ないことです。だから、14年パオセヤドーのそばにいる人でも、やはりあちらの人は正直なのです。

「【知り合いの方】私はどうしてもニミッタが持続できないのです」「【水源師】それはそうでしょう。もし丹田のこういうことをやれば力がつきますよ」「【知り合いの方】それはパオセヤドーから教えられていないけれど、違反するのではないのでしょうか」。

針の先まで違反したくないのです。「【水源師】いや問題ない、大丈夫。なぜなら、そのときはそこに集中して、後はここでアナパナをやるから絶対、問題ないですよ。パオセヤドーからも『私の教えはよろしい』ということになっています」「【知り合いの方】そうですか。それではそうします」。

というのは、『サティパターナ』¹には「悟りを開くには七つの条件がある」と書いてあります。その中の一つが「健康体の体がなければできない」とあります。

だから、病気がちというのは非常にうまくいかない。パオでもなぜストップしたかといえ、あまり強烈にやり過ぎて1年ブランクとか、体の体勢が整ってまた始めると。

だから、皆さんには「リラックス、体を壊さないように楽しく」という手法を選んでもらっているのですが、またそれ以上に素晴らしい教えがあれば、それで結構。

¹ パーリ語経典の『Satipaṭṭhāna Sutta』(サティパッターナ・スッタ)のことで、更に長編で詳説されたものが『Mahāsatipaṭṭhāna Sutta』(マハー・サティパッターナ・スッタ)である。漢訳に相当するのは『大念処経(大念住経)』『四念処経』で、「四念処(四念住)」の瞑想法が詳細に示される。「四念処(四念住)」とは「身念処・受念処・心念処・法念処」のこと。

今回も私がスリランカのキャンディでただお辞儀をして通り過ぎると、奇跡的に中から呼ぶのです。キャンディの仏牙舍利¹のお坊様に、「実際お釈迦様の前でお花をお供えしてください」と言われました。

そういう素晴らしい奇跡をまたもらって、今回、分かったのは、その中に全世界の仏教の流れがあるわけなのです。昔はインドネシアも完全に仏教国、マレーシアも仏教国でした。

なぜか今はイスラム教に変わってしまっていますが。世界でこうして仏教を教えてもらえる国、仏国というのはなかなかないのですね。

カンボジアも、もうほとんど崩壊寸前まで潰れてしまって、今の王様が 10 戒を守って結婚もせず、頭を剃ってパーティーにも行かず、お酒も口付けるくらいで、宮殿には住まず、王様がそういう暮らしをしているので、私が以前、来たときは全く変わっていました。

なぜか非常に安定し始めて、皆さんが仏教について、非常に目を向け始めていました。タイの宮殿でも、やはりガネーシャ²を建物に張っていました。やはりタントラーナ（密教）とガネーシャは切っても切れない関係のようです。やはりポロンナルワ³でも村の角々にガネーシャがあるし、またその秘伝も表には出ないけれども、「経典仏教」ではなく「実践仏教」でやっていました。

だから、必ずお坊さんにお布施をするし、お供えするし、社会全体が延々と 2600 年、崩れない体制になっています。どこかの人がまた生まれて、こうして分かっているとか、現象として起こるから、ひしひしと分かるのですね。

実際、今回もマレーシアで会ったサマネーラ（沙弥）が「実は私は前に戦争のとき日本人だったのです。日本人を見て非常に懐かしくて楽しくて、いつも見た覚えがあると思うのです。なぜ私はここに生まれたかという、実は過去世で南京虐殺に行き、三つのときから天皇陛下の教育を受けて、女の人を刺しました。同僚は全部地獄に落ちました。24 時間、苦しめられています」

あまりの強烈さに記憶をもってくるのです。ただそのとき「悔い改めて一生懸

¹ 釈尊の四牙のことで、三十二相の四牙白淨（牙白）相などに説かれている。パーリ長部『大般涅槃經』の最後には「一つの歯は三十三天で供養され、また一つの歯はガンダーラ市で供養される。また一つの歯はカリンガ王の国において供養される。また一つの歯を諸々の竜王が供養している」とあり、「カリンガ王の国において供養される」と言われるものが、キャンディの仏牙舍利と考えられる。

² ヒンドゥー教の神の一柱。日本密教では歓喜天（聖天）がガネーシャに起源をもつとされる。チベット仏教では、ガネーシャ（象頭財神）は大黒天に調伏された姿で描かれるが、観世音菩薩が本地とされる。

³ スリランカ北中部州にある中世の古都。1017 年から 1255 年まで首都であった。

命、仏道をやった」と。だから、仏道を真剣にマハーヤーナ（大乘）であろうが、テーラワーダ（南伝）であろうが、密教であろうが、一体になっているから、必ずや宇宙的な原理で善い方向に向かいます。それも真剣にやった場合です。

だから、その人はその苦しみから逃れたいために、一冊のノートに懺悔をびっしり書くけれど、「1 ページ分しか効果ない」と。サマネーラでこういう衣を着せてもらうときでも、非常に苦しかったそうです。衣というのは、ただ着るといっただけではないのです。

こうして私の場合、大聖者たち次々と談義して、いろいろな方法をダンマで講義しなければいけないのです。なぜかといえば、私ではなく世間の人々のために「いかにして進化させるか」と、国々のことも大切だけれども、世界的にも大切だということで、結局、「今ここで仏教が消えていけば、あの隕石は落ちていた」と思います。必ずや落ちていたはず。

なぜかといったら、水を研究する科学者が瞑想してコップの水を置いたら、きれいな結晶になり、瞑想しないで遊んで、ただコップの水を置いただけだと、汚い結晶になっていたそうです。科学者たちは「心と物質がつながっている」と、

おぼろげながら今、分かり始めて、仏教の方では「一切唯心造」¹と、「すべてはただ心で造られています」と言っています。

その奥義の経典を見るには、この護摩法しかないわけなのです。この護摩の行を第四禪定でやった場合には、見られる可能性があります。ただ、すべてニミッタ（禪相）を使わなければいけないのですね。

ところが、弘法大師様のときから「はなはだアナパナ（入出息念）をする人は少なし」と。泉涌寺の住職さんが灌頂のお札を私に下さった²けれど、そのお寺で1000年前12年間、中国に渡ってアナパナをしてニミッタを得たという月輪大師³が奉っていました。やはりそうしてやっていたのですね。今は天皇家のお寺ですけども。

¹ 『華嚴経』「夜摩宮中偈讚品」の「若人欲了知 三世一切仏 応観法界性 一切唯心造」（若し人、三世一切の仏を了知せんと欲しなば、応に法界の性を観ずべし、一切唯心造なり）の一節。

² 1 頁・脚注 4 参照。

³ 俊苧（1166-1227）：鎌倉時代前期の僧で出自不詳。真言宗泉涌寺の宗祖。



2012年12月28日 満月の護摩焚き

奇跡の連続だった仏教の旅

私がこうして密教とか、テーラワーダ（南伝）とか、大乘とかやったことが、今回の旅で明快に分かりました。「すべてやらなければ、仏教の本質は見る事ができない」ということになります。

こうして皆さんにご報告できるということで、私もとても嬉しく思います。今回、ブータンで学会に行く予定だったのですが、財政難で今年は開けないというので、逆に私は時間ができてよかったです。

また、そのおかげでタントラヤーナ（密教）の秘伝をもらってきて、やり方も少し教えてもらって、「そのうち秘法中の秘法の奥伝も私に渡す」と言っていました。役立つときが来るかもしれません。

というのは、「生きとし生けるものすべてが、ブッダの世界に入っていけばよいな」と、ただそれだけで、私自身というのは一つもありません。座っても蚊一匹、虫一匹、来ない、静寂なクジャクもいるし、ゾウさんも歩いている、という天国みたいなすごいところを「15万坪、差し上げます」と言われて、韓国の方でも「2万坪のお寺とか用意します」と、いろいろお話がありますが、やはり私はカナダの小さいところで、そこから南米の方へ行ければなと思っています。

実は今回ミャンマーに行ったのも、ウ・コビタさんが 1046 歳、その行法はどういうふうに行っているかと、非常に興味があって、ミンブというところにお寺がありまして、そこへ訪ねていったわけなのです。

バガンで護摩行をやったときに、ここに仏様が座っていますけれど、「無量寿仏」といって、この印は西の方を向いている阿弥陀様のことみたいですが、あるお坊様が「20 年間、瞑想してこの仏が見えた」と、この廃寺を探して再建させたわけなのです。この方はミャンマーではスーパースターなのです。

ヤンゴン市内にある僧院は非常に巨大で大きいです。そこに行ったら、普段はめったに会えないお坊様がいらしたので、私が頭を下げて「実はこうこうでミャンマーで護摩焚きをして、ミャンマーの平安と仏教が栄えるようにと祈りました」と説明したら、「私のバガンにある僧院を使ってください」と、一つ返事をくれました。

ということで、28 日満月の日に、バガンでの護摩焚きができたわけです。24 日に行って、すぐ二つ返事もらって、25 日にタクシーでほぼ 1 日、26 日バガンに行って、27 日は買い物して、28 日に護摩焚き。

29 日はミンブというところで、1046 歳のウ・コビタさん、AD 968 年に生まれています。夜 9 時 8 分に生まれています。時間まで分かっている。生まれた日は土曜日で、お父さんの名前はウ・タン・アン、お母さんの名前はダ・ヨン・メイという方で、ちゃんと住んでいた村も分かっています。

ウ・パンディッタさん、シン・オッタマヨさん、バドゥー・タン・アンさん、という 4 人いるのです。私が行ったらミンブのお寺の NO.4 セクレタリー 87 歳が「あなたのお出でくださるのをお待ちしております。とても歓迎いたします。今晚すべて 4 人、出てきます」と。

実はそういうことはないみたいです。いつ出てくるか、どこに住んでいるか分からないし、出てきたとしても、たった一人ぽつんと、大体、一番若い 204 歳の方が出てくるようですが、今回 4 人すべて出てくると、私は全く期待していなかったのです。ただそこに行って座っていました。

この方々は「すごい禅定状態で、火の中で燃えないで火もまた涼し」という行をやるというから、一体どういう行法を使うのかと、非常に興味があって、そこに行って瞑想すれば分かるかと思っていったら、ちゃんと出てきたのです。

そして、758 歳のウ・パンディッタ、561 歳のシン・オッタマヨ。204 歳のバドゥー・タン・アン、この方は 10 戒を守るだけで白い服を着た、比丘ではない在家なのです。サマネーラ（沙弥）にはならない行を続けているのです。

この方たちはすべてカシナ（十遍）¹の行法をちゃんと分かっているみたいで、

¹ 白、茶、黄、赤、地、水、火、風、光、空間を観て瞑想し第四禅定まで行ける。

この部屋全部、鍵が閉まっています、その小さい部屋にパッと現れて、そこからまた消えていくのです。それはカシナの行法でできるわけです。

それはアビンニャー（神通）、そのやり方はパオから経典をもらっていますが、私はあまりそちらの方は興味がないので、全然したくありませんし、そんなことしても、私にとってはあまり意味のないことだと思います。

この方たちは、私に来るのを分かっています、ちゃんと待っていたわけなのです。なぜ待っていたかと言えば、「【水源師】あなたたちは、どうしてこんなに長生きするのですか」「【聖者たち】理由はたった一つ、弥勒ブッダが出てくるのをただ待っているのです」と。

結局「三十七の行法をやれば、弥勒ブッダを待つ必要がない」と。ということ、レディセヤダーがちゃんと明言しているのです。私はその三十七の行法をバガンでやったわけなのです。ということで、「【聖者たち】あなたが来るのを待っていました」。

これからまたボルブドゥールで、私が何をやるかちゃんと分かっていたのですね。そのときにはもう「大涅槃界」が発生するから、そこに行ってしまうと、預流果¹の世界に入ってしまうのです。

ナーマ（心）は分からないけれど、体は即身成仏ですね。だからもう待たなくてよいわけなのです。その力があるから、体を移転しなくても、私がやったボロブドゥールに来てしまうからです。

私がパオン²でその行法をやったとき、ダーッと小さい部屋の中に天界の方々が、ものすごい勢いで降りてきましたね。28日終わって、その後、カナダから来た二人の生徒を連れていったとき、やはり火はないのだけれど、「火が燃えて金粉がいっぱい上がっていた」と言っていました。ちゃんと見えるのですね。

¹ 四向四果（預流、一來、不還、阿羅漢）の一つで、人間に最高で7回転生し、やがて阿羅漢果を必ず成就できる最初の悟りの段階。須陀洹果ともいう。

² Candi Pawon（チャンディ・パウオン）：インドネシアのジャワ島中部の都市ジョクジャカルタ郊外にある仏教寺院遺跡。ボロブドゥール寺院遺跡群の一つで、ボロブドゥールとムンドゥ寺院を結ぶ直線の中に位置している小さな寺院跡である。



(左) パンニャバロ長老 (右) 水源禅師

ボロボドゥールで護摩焚きしたのは、丘の上でやったのですね。このパンニャバロという比丘は、トップの南伝仏教の方々には非常に高名な方で、特にチベット仏教の方々によく訪ねてくるそうです。

この方は密教の奥伝の護摩焚きの「アカラ」のこと（サンスクリットで「アチャラ」と発音します）を知っているのです。パンニャバロさんは「全霊の神と全く一緒だ」と言っています。「アチャラ」という言葉を辞典で調べてみると、「Gattle Fire」と出ています。

すべて密教では「三角」の火の輪から始まるのです。やはり「三角」なのですね。だから、パンニャバロさんも隠れながら「三角」を刻んで、仏の後ろに置いているのです。



パンニャバロ長老が置かれた仏像と「三角」

だから、二人の間では「【パンニャバロ長老】三角のことをやってくれましたか」ということは、「行法をやってくれましたか」ということなのです。他の屋根を見ても、「三角」の銅板で火の鳥の模様をちゃんと納めているのです。

パンニャバロさんは 30 数年前にタイの王室仏教を取り入れた方で、だからテーラワーダでは絶対、受けられないことをちゃんと知っていたのです。また、「【パンニャバロ長老】ぜひ私のお寺でやってください」と。「【水源師】あなたはお告げがあったでしょう？」「【パンニャバロ長老】ありました」「【水源師】あなたはこのボロブドゥールを守る方でしょう？」「【パンニャバロ長老】そのとおりです」。

密教というのは彼も知っているのですが、テーラワーダでは言えないことだけれど、二人の間ではちゃんと分かるのですね。チベット仏教のお坊さんも、よくボロブドゥールへ来るのです。なぜかといったら、1000 年前そこからチベットの仏教が伝わっていったのです。日本にはその 200 年前その法灯をもってきているのです。

だから、二つ返事で「OK」と、「やってください」というのですね。「ちゃんと用意しておきます。場所はボロブドゥールの中にあります」。まあ、そばでやらせてもらうのだと思っていたら、中でちゃんとパトロールカーで迎えに来てくれて、ボロブドゥールがちゃんと見える世界遺産内の丘の上で、護摩焚きをやることができたのです。

普通は絶対にそんなところではやらせてくれないのですね。そして、そこでやって後で分かったことは、ボロブドゥールの籠に囲まれていない、一つのブツダの目が、ちゃんとそこの丘の目線と合っていたのです。ピターッと合っているわけなのです。



目線が合っていた釈迦如来像

そのように偶然が重なり合って奇跡の連続ですが、「偶然が重なり合えば、もはや偶然ではない」と。「すべて 1200 年前から設定されたことである」ということにしか思えないし、最後のスリーパーダの護摩焚きするとき、普通はあのトップでやらせてくれないですよ。

そこの最高の住職の方が「この行法のいわれを教えてください」と。でも、英語が堪能な通訳だけれども、ちんぷんかんぷんで言葉がないのですね。龍樹菩薩のこともはっきり分からないし。タントラヤーナを見せたように、こういうふう

に経典にあるのです。そのスリーパーダでやることが分かるように、35 年間、毎日のお坊さんが一回しか出会わないのに、ちゃんと言って太陽が出てくるのだから。

やはり外的な力で発生したとしか思えない、あまりにも偶然が続いたという本当に奇跡の連続でした。

質疑応答

ダンマを曲げることは最大の罪

【参加者】

「正しいダンマ（法）」というのがあったと思いますが、「正しいダンマを検証していくのが大切だ」というのは、世の中にいろいろな教えがある中で、本当のダンマを私たちが暮らしている中で、見分けていけばよいのでしょうか。

【水源師】

第一に「神仏に心から帰依する」ことから始まります。帰依したときに「信」「信じる」という心が発生します。「信じる心」によって今度は「念・サティ」が発生します。その心によって「叡智・パンニャー」の力が出てきます。「叡智」の目で見れば、「これが善いか悪いか」ということが大体、分かります。

もし、ある教えを信じてやってもよいのだけれども、そのときいくらやっても、水が止まるように流れません。私の場合、この教えはどうも合っていないと、他の方法を見る必要があるというふうに考えて、ダンマの旅は始まっています。

それはすべて自分の人生体験から照らし合わせてダンマになります。他から聞いて、それを実行して自分のものにしたときにダンマになります。

ただ聞いただけでは、まだそれはティピタカ（三蔵）を全部、読んだって、結局、瞑想できないのですから。ミャンマーの方が全経典、暗記しているのです。

皆さんこの方が完全にできると思うでしょう。15分くらいしか瞑想できない。また、韓国の素晴らしい行者が、4時間ぶっ続けでお祈りできるのです。すごい大きなお寺をもっているが、それをポッと捨てて5年間まだパオにいて、「やあ先生、まだ1時間くらいしか瞑想できないのです。なかなか進めません」。

見たらやはり仏教哲学の本を読んでいるのです。好きだから「やめなさい」とも言えないので、仕方がないでしょう。パオセヤドーに言ったら、「苦しむだけ苦しみさせなさい。もがいた中で何かできるでしょう。できても、できなくてもよい」という回答でした。

その方たちは、もう必死になっているから、財産も何もいらなくて、そういうことでやっているから、もがくだけもがけば、必ず来世、善い結果が出るし。

皆さんの場合は、在家でも社会のために家族のために働いて、親族のために善い結果を出そうと思って時間もないでしょう。

だから、どうしても優しくなります。何か一つでも、私の体験の中からダンマ一つでも、もらってもらったら、必ずや私の過去 20 回の輪廻転生の体験により、

善い結果が出てきます。そういうことで言っています。

私は経典を読んでカルマ（業）が善くなると言っているのではなく、私の体験からすべて話していますから。私の実際のことであって、あなたには当てはまらないかもしれませんが、参考として、そういう方向で必ずや善い結果が出ると思いますし、心もそういうふうには造られています。そこを見る必要があるわけです。

経典仏教の場合は、『清浄道論』¹でも、それを読んでできないようになっています。ぶつぶつと外れているから。パオの経典でもいっぱい落とし穴があるわけ。

そのとおりにやったら絶対できない。そのとおりにやったら、ぐるぐる何回でもやらされます。分かってないということ。回答は絶対、教えません。

仏教は経典ではできないようになっています。それを行者がそばで見て方向を指し示して、自分で山に登るしかないのです。

【参加者】

それは「三帰依」が土台になるのですか。

【水源師】

そうです。それが非常に大切です。私の場合そうでした。だから「三帰依」をして、朝から晩まで『般若心経』ばかり読んで読み続けていって、そしたらとうとうパオでその体験を全部させてもらいました。

だから、南方では『般若心経』がいない。それを私たちは実際やっているから必要ない」と。「なるほど」という回答でした。

それでスマナサーラさんが「色即是空はあるが空即是色はない」と。彼は結局、「照見五蘊皆空」まで理論的に分かったみたいで、体験はないみたいですね。

それで非常に今は本を読んで勉強するしかないから、ベストセラーになっているみたいですがけれども、やはり非常に大きな動揺を与えて、彼自身も来世で非常にすごい天罰を受けるでしょう。

【参加者】

スマナサーラさんは仏教に帰依をしていますか。

【水源師】

仏教に帰依しているけれども、結局「法を曲げてしまった」ということで、「法

¹ ブッダゴーサが5世紀初めに書いた主著で、「南方仏教最大の教理綱要書」ともいわれている。

を曲げた」ということは「五逆罪¹以上のことをした」ということ。結局、分かったふりして最後まで体験もしていないのに。

というと、彼は『サティパターナ』を完成しなければいけないわけ。もちろんパオも4カ月でできるはず。最低パオでも全教科をやるときに、1回やっても4カ月が必要なのです。

7日では絶対できません。万が一そういう方がいて「私は7日でできました」と言うことがあれば、パオ僧院でも「誰も出ていない」と言うし、「誰ですか」と。パオ総本山では仰天していました。

ということで、最低でもハイスピードでも4カ月かかります。チェックします。だから、いったん外で終わっても、パオ僧院に行ってチェックするために、スリランカから今度、行くみたいですけれども。一応、ナウヤナ²で全部、終えたみたいなんです。それが現状です。

ですから結局、これはもしミャンマーで、これが本当に分かった場合には、実際問題としてミャンマーの仏教が潰れるみたいなことに発生してしまうのです。他の団体が「それ見たことか」となるわけです。ということを私は言う気もないし、ただそこで内輪で止めておけばね、方向を変えて。

「誰がやった、誰言った」それは知らないこと。本人も言っていないだろうし、周りでそういううわさを作り上げた。その中間層が非常に問題あるかもしれせんね、本人ではなく。

だから、本人と直接パオの長老たちと私が談義して、そういうことで分かるのだけれども、長老たちはもう喜んで談義に来ますし、私の話も聞くし、事細かに対談してしまいます。

だから、結局、行者は私利私欲、一切もなく、ただ皆さんのことを「いかにしてダンマをもってもらおう」とか「ブッダにいかに早く近づいてもらおうとか」しかないわけなのです。

ただその方向でやるがゆえに、中間層で訳が分からないのに「これはブッダである」とか「これは修行ダメ」とか。それから見ていたら、Teacher's Class 入っていないで、内容も全然、分からないのに「これは Teacher's Class である」と言

¹ 最も罪となる行いで、無間(阿鼻)地獄へ墮ちる原因となる。①殺母(母を殺す) ②殺父(父を殺す) ③殺阿羅漢(聖者を殺す) ④出仏身血(仏を傷つけて出血させる) ⑤破和合僧(教団を破壊する) 以上を「三乗(小乗)の五逆」というのに対し、「大乘の五逆」は以下の五つ。①塔寺を破壊し経蔵を焼き、三宝の財宝を盗む ②声聞・縁覚・大乘の教えをそしる ③出家者の修行を妨げる、出家者を殺す ④三乗(小乗)の五逆 ⑤因果の道理を信じず、十不善行を行う。

² ナウヤナ森林僧院：スリランカのほぼ中央に位置し、2000年以上の歴史をもつ修道院で、パオ森林僧院の分院でもある。

うことが多いのです。

だから一番善いのは、自分で行って検証して確かめてみるのが、一番間違いないけれども、またできないようにする方もいるのですね。させないようにして。それで長々と同じことを繰り返させると。

だから、「川の流れが止まって進まないときは、何か自分とこの手法は合っていない」と言ったでしょう。この方はその方法で完全に正しいかもしれないけれども、体験が違うから、他の場所で確かめてみる必要があるかもしれない。

だから、お釈迦様が『サティパターナ』で「四つの手法で確かめて観てください」ということで、やっているのだと思います。今回それが分かりましたが、またそのとおりでできています。

だから、韓国のお坊さんでも禅しかない、修行がうまくいかない。だから、私が幽霊（餓鬼）をバーンと取り払ったことを見て驚嘆してしまって、「今度、来年また来て教えてください」と。一つこれしかない、狂信的になったらダメなのですね。

オープンに「すべての法をありのままに観る」と、ありのままに。結局、そこで宣伝とかプロパガンダが入ってしまうから、そういうことで教育されて、知らず知らずのうえに自分で「ブッダである」「これはダメである」とか、決定してしまいますから。

こういうことをすれば、悪いことになるということは、それは自分の過去をずうっと見て、実際の体験上でしか分かりません。そのときに初めて、宇宙の法則「Intercept Karma」ということを非常に私は興味をもって、ミャンマーに行ったわけなのです。

そして、「日本で大変なことが起こっている」ということが分かって、まあそれはそれでよいのだけれども、そういうふうであると認識したまでは正しいわけ。それを **Overlap** に隠されて、そのまま行った場合には、あなたたちも次の人生で大変な被害を被るということ。実際そういう現象が、ダンマ討議で発生していますから。行者が終わったときに「私は前の人生でこうだった」と。

今回もマンダレー¹、パオ分院で「【行者】私は全教科を修了しましたが、空に入れません。私は4回動物でした。6回女でした」「【水源師】それではニミッタ（禅相）を発射するから、何が観えるか教えてください。」と。

やはり10何年も一緒にやれば、ニミッタ発射したら、観えなければいけないわけなのです。ニミッタを知らない韓国の方たちも1時間半、座らせて、ニミッタ

¹ ミャンマーでヤンゴンに次ぐ第2の都市。ミャンマー仏教文化と信仰の中心で、イギリスに併合されるまで、独立を保った最後の王朝の首都でもあった。

で全部、映像を観てしまうのです。また、ニミッタを発射して「次はこれをやってください」と。

私はパオで、たった 11 カ月しかしていないけれども、そこで 2 年 3 年 10 年、教えている人は当然、私以上の力をもたなければいけないし、ないとなれば、これは疑問であるということです。

逆に、私は奇跡の中の人間に思われて、特別扱ただけけれども、私から見たらそうではなくて、ありのままにやったらそうなるだけのこと。結局、上も下もなく皆さんも私と同じ力をもっています。

「それを誤解して閉じ込めている鍵をどうして開けるか」が、私の仕事である。いち早く私のような体験をしてほしいと。どんどん私と同じような体験をしまえば、この日本が本当に明るい素晴らしい仏国になってきますよ。

だから、何回もスマナサーラさんのことを出して悪いけど、スリランカでも「彼は彼なりの教えですからね」と。どうもスリランカとは違うのです。私が「彼の考えは受け入れられないのです」、「やあそうですね。私もそうなんです」。あちらの高僧もそう言うのです。

30 何年もスリランカ離れて、実際、本国の人は話もしていないし、日本で大乘仏教のことをぐちゃぐちゃ曲げてしまって、彼がパオに行ったら当然ダンマヌパサナー（法随観）を 4 カ月で通過しなければいけないはず。彼がそこまで言うのならできるはず。

そしたら、ナーマ・ルーパ（名・色）の過程で「色即是空、空即是色」が明快に観えるはず。それもやらないで「(空即是色は) ない」となれば、ダンマを曲げて日本の人に教えているから、彼は大変なことになりますね。

また、そのまま信じて「そうだ」と思った方々も、一緒に行っちゃうわけなのです。それが私は心配なのです。その証拠に、オウム真理教で信じたがゆえに、死刑になる方がいるでしょう。そこを心配しているのです。宇宙の法則はそうなっているのです。

だから、お釈迦様は四つの鍵を渡して「この四つ全部できたときに正解になっていますよ」と。二つでも同じ結果三つ、四つ、これは完全と。だから、どんどんそういう方たちは『サテパッターナ』、誰でも知っているわけなのです。

一つだけずうっとやって、ほかはやらないということは、やはりちょっと疑問があります。やはり韓国でチッタヌパサナー（心随観）をやった人は、もう必死になって、どんどんダンマヌパサナーをやろうとしていますからね。

それでまた、ミャンマーの最高峰の Teacher's Class の最高峰が「禅をやりたい」と、「先生はいますか」と、法にはもう壁がないのです。

それぞれに見合った瞑想法

【参加者】

僕は今日、初めて参加するのですけれども、先生の瞑想方法というのは。

【水源師】

私は以前、禅を主体にしてきました。結局、ダンマヌパサナー（法随観）のパオは非常に難しいです。前世の関係によってニミッタ（禅相）が出ればよいのだけれど、出ない場合が往々にしてあって、突っかかるから、逆にチッタヌパサナー（心随観）、ヴェーダナヌパサナー（受随観）、カーヤヌパサナー（身随観）、どの方向で行けば、最も心が進化するかということで、やはりインタビューが非常に大切になります。

そのインタビューによって「あなたはこっちの方向がよかろう」と。また、座ってインタビューをします。実はインタビューが多ければ多いほど、より早く正確に方向性がはっきり見えてきます。

一人一人違います。みんな一緒ではないのです。というのは、みんなそれぞれ違う人生体験をしているし、過去もまた別々だから、座らせてどんな現象が起こったかによって、私の体験から大体の方向性が分かります。

ある人は、やはり非常に経典仏教が素晴らしくて、すべて覚えているし、そして南伝の方も10年以上、修行された方が座っても、全然、観えないのです。

なぜかといったら、経典の方ばかりやったもので、いくら10年間、座っても、現象が出てこないわけなのです。

そういうときには「あなたはまず丹田の基礎、数息観からやって力をつけてください」と。結局、頭の方が大きくなってしまって、実際の方向に行かないのです。そういうふうに、やはり一人一人、現象を観ていかなければいけないのです。

本当のラベリング

【参加者】

僕は「ラベリング」というスマナサーラ長老のところでやっていたのですが。

【水源師】

どういうことですか。

【参加者】

「実況中継」といって、「上げる、上げる、上げる」と言いながら「ラベリング」するのです。

【水源師】

これは実は密教の奥義で「身口意」になります。それを分らずに南伝の經典仏教で、それを外してしまって「上げる、上げる、下りる、下りる」と、10年やった人がミャンマーに行ったわけなのです。

「【水源師】あなた何にもできなかつたでしょう。何の進歩もなかつたでしょう」
「【10年やった人】先生そのとおりです。ですから、今4年パオの修行をやっています」

そこは「身口意」という行法が、はっきり分らなければ、ただそれだけの繰り返しで、ただヨガに近い運動になりますね。でも、それをやっていたら心は落ち着きますけど、そういう状態です。だから、その方法では、もっと深いダンマに入っていくません。

ただそういうことでも、ずうっと続けていけば、結局こうやって動かしたときにチッタルーパ（心の物質）がダーッと観えるのです。これは動いていないのです。これが動いて観えるのは、チッタルーパが最初に先に動いて、後から追っかけていく現象が観えます。こういう現象が観えます。そのときには心が相当、深いところまで一点に集中しているわけです。

だから結局、密教では「身口意」、禅では「三千回全身投礼¹」しなければ、入門させないのです。そここのところで頭と体を使うのです。三千回お辞儀すれば、しっかりと心にたたき込まれるから。また、それを外してただやっても、なかなかうまくいかない。

だから、もしそういう行法をやるときには、三千回、一心不乱に観音様でも、お釈迦様でも拝めばよいですね。「全身投礼三千回」やってから、それしてください。必ず何か変化、起こるはずですよ。立って座って頭下げて立って、これが一回。そのときに「南無釈迦牟尼仏」「ナムゴータマブツ」と、何でもよいから唱えるとよいです。「三千回やって唱えること」が大切です。

「身口意」、これは密教で強調されていますけど、私の体験上やはり禅でもこれをやらせます。そのときに「身口意」が一致してしまうわけですね。私がやった場合は、そこから禅ではずうっと座らせます。そこで本当の「信心の心」が出るからやるのでしょ。出るから体を動かして、体で結局、「信」「念」、唱えることによって「パニャー・智慧」が発生する。

そこから今度はカーヤヌパサナー（身随観）、そのとき心が「膨らんだ、縮んだ」と、それだけずうっとやっていくのです。足上げることによって、逆に体、動か

¹ 五体投地のことで、五体（両手・両膝・額）を地面に投げ伏して礼拝する。仏教で最も丁寧な礼拝方法の一つとされ、対象への絶対的な帰依を表す。

すことによって、ジャーナ（禅定）の前の状態が崩れるから、一番よいのは椅子に座りながら、お腹が「膨れた、縮んだ」「Rising、Falling」と、これだけずうっとやっていけばよいです。そして、そのときに体全身が光り始めるわけです。

もし「身」の場合は、そこで今度はルーパが崩れる手法をやります。ルーパを見分ける方法。入っていくドアがあります。

もしそういうふうにマハシ¹の法則でやるならば、スマナサーラさんの場合は10日でマスターしたというけど、失礼ながらあり得ません。土台できない。ただ彼は体験して「ラベリング、ラベリング」と、模倣だけです。

だから、あなたに聞きますけど、何も起こらなかったでしょう。

【参加者】

はい。

【水源師】

起こるわけがない。本人が知らないのだから。だから、瞑想というのは、本人が本当に分からなければ、何も起こりません。だから、「よい先生を探してください」と、そういうことです。



2012年12月28日 満月の護摩焚き

¹ マハシ・セヤドー（1904-1982）：ミャンマーの僧侶で、上座仏教大長老。瞑想指導者として、欧米やアジアのヴィパッサナー瞑想に多大な影響を与えた。

中国禅宗第四祖 道信大師¹と丹田

【参加者】

アナパナ（入出息念）に切り替えているのですが、今の状態は1から8まで数える間に、やはり妄想が入って数えられないのですけれども、そのまま1時間くらい座ってしまうという状態です。

【水源師】

まあそれが普通ですけれども、その妄想が入らないようにするには、私は禅法で丹田を強化し、アナパナにいくときも非常にやりやすいと思います。

だから、私は前代未聞の速さでパオを修了したということで、パオの方でも驚愕したわけなのです。長時間、座れないはずなのに、座れてしまって。結局、丹田のことを長年やっていたのですね。

「第2チャクラ」、クンダリーニ²の上の方のチャクラが丹田に当たります。ちょうどこの辺り。ここを膨らますように、寝ても立っても座っても、ここで呼吸するように。仙人の行者になれば、足で呼吸するのですね。仏教はそこでなくて丹田でやります。

だから、達磨大師から4番目の方が仙人だったのです。3代目³に「【4代目】この禅の手法を教えてください」、「【3代目】教えるわけにいかない。あなたは何万年、生きてるか分からないし、明日、死ぬかも分からない老人に、こんな大事なダンマ（法）を教えられない」と。

そしたら「【4代目】分かりました」と言って、この人が旅に出て、橋のたもとで若い女性が洗い物をしていました。遠い村の娘さんを見て「【4代目】あなたのところに泊まりたいけれど、いいですか」と、「【娘さん】はい。お父さんに聞きに行きます」。

そして、その人が消えて、その後、妊娠しちゃったわけです。妊娠して困ってしまって、この娘さんがお父さんに非常に怒られて、子供を捨てに川に行ったら、たるの中で赤ちゃんがにこにこ笑って、たるがクルクル回って動かないのですね。

その微笑みを見て、その赤ちゃんを育てることにしました。この方は小さいころから一言もしゃべらなかったのです。しかし、全部、知っているのですね。

¹ 道信大師(580-651):中国禅宗第四祖。蕪州を中心に布教に励み、弟子の五祖弘忍とともに「東山法門」と呼ばれる一大勢力を築き、後の禅宗の母胎を形成する。

² 人体内に存在する根源的生命エネルギーで、普段は尾てい骨付近の「第1チャクラ」に眠っているという説明が一般的である。

³ 僧璨大師(?-606):中国禅宗第三祖、中国・隋代の僧。「璨」とは「美しい珠」「光り輝く宝玉(宝石)」のこと。唐の玄宗皇帝より「鑑智禅師」の諡を賜った。

そして、16歳になって初めて、お坊さんに話しかけたのです。向こうからお坊さんが歩いてきて、「【16歳の人】あなたはどのお寺から来ましたか」「【お坊さん】これこれ、達磨大師の3代目のところから来ました」。バーと、そのお寺に駆けつけていって、「【16歳の人】私は今こういう16歳の体になったから教えてください」「【3代目】はい」と。それ（16歳の人）が4代目。

だから、キリスト教ではマリア様が妊娠した¹とか、そういうことを実際、仏教ではやってしまうわけなのです。「一切唯心造」。この方は仙人の行をやっていたから、足で呼吸していたから、当然、丹田なんてすぐできてしまって、4代目になったのです。そういう言い伝えがあります。

【参加者】

「足で呼吸する」とは。

【水源師】

足を実際に膨らみますのです。そこまでできてしまうのです。私たちは四界分別²のとき、頭から空気を入れる行をやらせます。本当に体、膨らませてしまう。全部ルーパ（物質）、感じてしまいます。それを意識でなく第四禅定でやれば、それができてしまうのです。

その四界分別の場合にはイメージでやるわけ。イメージと実際は違うのです。だから、パオでもできない場合は四界分別というイメージだけ、意識だけ。実際、深く観えませんか。ただそんな感じという。結局ニミッタ（禅相）が出ないから。

という方は、ブッダサティ（*budha-anussati*：仏随念）とか、四界分別とか、メッタの行法とか、そういうふうにしてやらせます。イメージ瞑想。一番よいのは、実際に丹田のところに気を入れて、手を当てて膨らむように努力して、そうすれば、あなたはまだ若いから、将来、必ず善い結果を起こすと思います。

【参加者】

そのお話の続きなのですが、先日、丹田を教えていただいて、丹田やっアパナやるようになったら、すごいニミッタが光るようになりました。

今日は先生が前にいらっしゃるから、すごいニミッタが光って、だんだん集中していくと、何もかもなくなってきた、ああこのままいくと落ちちゃうかなと思って、気を失いそうになりました。

¹ キリスト教において、聖母マリアによるイエス・キリストの受胎を「処女懐胎」または「処女受胎」という。

² 四界分別観：体の要素である地、水、火、風の四大について、その働きを観る。

【水源師】

「そこをありのままに観る」と。結局、眠りの瞑想をさせるときに眠らせないので。落ちてしまったら、もう分からない状態になってしまうから、落ちないようにここで止めるわけです。

そこでずうっと止めていけば、ジャーナと同じ体験をしてしまうのです。だから、これを完全にできた場合には、ニミッタが急速にできるはず。

【参加者】

「すごい今日は難しい」と思って、落ちないようにしようと思ったときに、もう集中力が切れてしまって。

【水源師】

そうそう、揺れてしまうのですね。だから、そこを揺れないように、ウペッカ（捨、静寂）の状態で行っていきと。ま、そこまでいかななくても、もう少し丹田を、もう少し強化してみてください。この次はもっと深くいきとと思います。焦らずに。

いつ死んでもよいようにダンマをもつ

【参加者】

瞑想の話とは違うのですが、先ほど「彗星」のお話が出ましたが。

【水源師】

あれは1950年代ですかね。今、携帯電話を使っているでしょう。この Electro Magnetic（電磁石・電磁気の）の Micro Wave（マイクロ波・極超短波）、2 MHz（メガヘルツ）から4 MHz、空中に発射するのです。空中に発射したら、空気の層が破れるのですね。空気の層が破れたら、急速に冷たい空気がバーッと降りてきて、異常気象現象が起きるのです。

エジソンの下で働いていた特斯拉¹という天才がおりまして、今のすべての電気関係（特斯拉の交流性）を彼がやったのです。この方がヴァイブレーションで地震も起こせるわけなのです。有名な「Manhattan Experiment」（マンハッタン計画）²という時空を超えることをやったのです。揺れの世界。

¹ ニコラ・特斯拉（1856-1943）：電気技師、発明家。交流電流、ラジオやラジオン（無線トランスミッター）、蛍光灯、空中放電実験で有名な特斯拉コイルなどの多数の発明、また無線送電システム（世界システム）の提唱などで有名。

² 第二次世界大戦中、枢軸国の原子爆弾開発に焦ったアメリカ、イギリス、カナダが原爆開発のため科学者、技術者を総動員した計画で、原子爆弾が製造された。

なぜか彼のすべての研究は燃やされて、全部破壊されてしまったのです。すべての彼の発想はこうだと言っているが、「HAARP(ハーブ)というのは Micro Wave を空中に発生させて、それで巨大な変化を起こすし、地震も発生させる」と。

だから、ロシアとアメリカは「お互いに地震を起こさせる方法は使わないように」という協定があるみたいです。Vessel Wave (ヴェッセルウェーブ) は異方から発射すれば、こうなるでしょう。これがまた wave で空間ができるわけです。この中に隕石を閉じ込めれば、この力で軌道を変えられるわけなのです。

なぜかといったら、アメリカの方では、一つの隕石をちゃんと地上に下ろしたら、結局「アメリカの今の借金全部、払えるだけの鉱物を持っている」というふうな、すべての「レアアース」¹とか、すごい「鉱石」があるらしい。

ところが、そういう名目でやっていたのだけれども、三方立体的にグアム、アラスカ、ノルウェー。それを発射して 14 個あるけれども、その一つが落ちてきたのです。「本当は本体をカナダの北の方へ落とすつもりだったけれど、軌道が切れて」という言い訳だけれども、実際は「広島原爆の数百倍、空中爆発する」はずだったのです。

それ自体も地球の宇宙の深い秘密があって、この地球を守る自動防衛装置が過去の古代文明からちゃんと埋められているのです。だから、空中爆発したけれど、衝突しなかった。その衝撃波が地球をぐるぐる 2 回も回ったのです。それが本当の本体は 19 万トン。これが落ちたら本当に大変なことになったでしょうね。壊滅。

何かの作用で、それは止めたけれども、ロシアの方では「もう完全にアメリカからやられた」と、その HAARP の発射した時点で分かっていたから、プーチンが核爆撃機をすべて発射させたのです。

だから、皆さんに「いかにダンマが大切かと、いつ死んでもよいように」。あと 50 年、100 年とか、もうその余裕がないくらい、私たちは異常な体制をつくってしまっている。

一番よい例が、やはり福島でしょう。仏教者としては明日、滅びるかもしれないけれども、「そういう時間帯も分かって、法を伝えなければいけない」と、私は思っているのです。

50 年もある、100 年もある、そんなのんびりしてトコトコやっていて、法を一つでももたせないで、次の世に送ったらどうなりますか。行けなくなっちゃう。

¹ 希土類元素：希少価値が高く、混合酸化物から分離するのが難しい。レアメタルの一部。

バチカン¹見ても神がいるというのに、もう法王が辞めざるを得ない状態になったわけです。裏話がいっぱいあるけど、そこまでは言わないけれども。

只管扶座

【参加者】

禅の質問で、「只管扶座」はひたすら座る、「公案をもって座る」とは。

【水源師】

只管打座の場合は、「本当に只管打座を体験した方」から習わないといけない。以心伝心で。ただ本だけ読んでいくらやったって、何が只管打座で、どうなのかさっぱり分からない。

只管打座になるには、結局、「解脱・サンカーラ・ウペッカ（行捨）²」が発生しなければいけない。発生していない場合には、その方はただ言われているとおりに座っているだけ。

「ただ先生から言われたから」、それは間違いないけれども、結局スマナサーラさんに教えられたとおりにやっても、何もなかったでしょう。ま、それはそれでよいわけ。なぜかといったら、それは何もない体験だったと。それで他の手法が見られるということ。一つも無駄になっていないわけ。

だから、最初から「これはダメだ」と否定してやらないよりも、間違ってもそれをやって「アーこれはダメだった」と。それはよい体験なのです。

【参加者】

先生、長老が「体をゆっくり動かすのは心が落ち着く」と、また「体をしっかり止めて1ミリも動かさないと、精神的な力が湧いてくるよ」と言っていたのですが、まさにそのとおりの体験をしたのですが。

【水源師】

もちろん精神的に黙っていれば、力が湧いてきます。これはどの手法でも一緒です。だけど、それ以上、進まなかったでしょう？

だから、それは、そこまでは彼は知っていて、それ以上は知っていない。それは禅の基本で、ただ座ればスーッととなります。

¹ バチカン市国：ヨーロッパにある国家で国土面積は世界最小。ローマ教皇庁によって統治されるカトリック教会と東方典礼カトリック教会の中心地、いわば「総本山」。

² 行捨智：世間的な諸行を超越して、これに無関心となる智慧。涅槃に至るまでの16の智慧の11番目。

【参加者】

只管打坐といって禅寺に行って、お坊さんの講習会をやっていて、僕も禅のお坊さんを何人か知り合いがいて、とりあえず行って見たら座り方を教えられて、形が崩れたらスコーンと、ただそれだけだったのですが、先ほどのお話のように、そういうところに行っても体験はするけれど、「それ以上のことはない」と、「無駄だった」ということになるのでしょうか。

【水源師】

それで、今度は「本当に只管打坐の法をもった方」を探すしかないですね。

【参加者】

「只管打坐の法をもった方に習わない」と、禅をするところに行っても、無駄足になるということでしょうか。

【水源師】

ま、そのレベルでずうっといくと、あとは経典を読んでいくか、ま、その出会いとか、いろいろなことが起こります。

本当の師から公案を授かる

【参加者】

「公案をもって座る」というのは、どうなのでしょう。

【水源師】

やはり「公案をちゃんと通過した人」から公案を与えられた場合には、以心伝心ですごいところにいきます。だから、盲信はやめて「すべて自分が進化しているかしてないか」「進化しているかしてないか」検証する必要があります。

「なぜ進化していないのか」、先生に聞いて、先生の言うとおりにやってみても進化しないと、また質問してみると。納得いくまでやっていくと。どうしても合わないと思ったら、他のところも訪ねてやってみると。

そういうことで、「縁をつくって生かしていく」ということです。「縁を殺すわけではない」のです。だから、スマナサーラさんのところに行って、今こうしてここに来たのも、そういう素晴らしい縁でここに座って、また私の言っていることも光栄に聞いていただけると。「こういう縁をいかにして生かすか」と。

ここが「仏法の最高」で、どんなことがあっても「縁を殺すのはよくない」。そういうことです。だから、そこで何も発生しなかったとしても、座れたでしょう。

道元禪師¹（1200-1253）が福井の永平寺に持って行って、ちゃんと数百年、続いているということは、必ずやよいことがあるし、彼の經典を読んできましたら、江戸時代に全部バラバラになっていたのですね。

それを近年においてまとめたのが『正法眼蔵』と。やはり読んでみたら、彼すべて体験を述べているから、体験でしか理解できない經典です。

それを「4, 5人集まって、みんなで解析する」、これはできない話。それはよいでしょうけれども、先代が何を言ったかと。本当のところを読むには、体験しかないのです。

ある一節に彼が言ったのは「空中に三角が浮かびまして」なんて書いてある。これは体験でしか絶対観ることができない。何が三角なのか絶対分からないはず。彼も言わないし、体験者だけが分かる言葉。「アーこれは体験からの經典だ」と。

【参加者】

それでは、禅のお寺では、とりあえず最初の形だけ習った後に自分でやってみるというよりも、それを「悟って把握している人」に習うことで、初めてその門が開かれるということですか。

【水源師】

そうですね。だから、結局「弥勒仏陀を待つ」というのも、そういう「悟りを開いた方」に行けば、すべてニッバーナ（涅槃）に行けると。マハーニッバーナ・ダートゥ（大涅槃界）の世界に完全に入るということで。

だから、「弥勒菩薩の生まれる時代に生まれるたい」という信仰もあったと。それで、今回ミャンマーに行って「あなた（水源師）のお出でくださるのをお待ちしております」と。こっちがびっくりするくらい。

そういう方たちは、もう1000年以上も座っているから、分かるわけなのですね。神通が発達して何が起こっているか、サーッと分かるのですね。

病気の対処法

【参加者】

私の兄弟が病気していまして、難病で治す方法が見つからない病気なのですが、消化器系がやられてしまって、食べ物を制限されていまして、食べられるもの・食べられないものがあるって、栄養が取れずにやせ細って体のエネルギーがなくなっていくような感じで、そういう体の弱っている人に対して、何か瞑想法かエネ

¹ 鎌倉時代初期の禅僧で、日本における曹洞宗の開祖。いたずらに見性を追い求めず、坐禅している姿そのものが仏であり、修行の中に悟りがあるという修証一等、只管打坐の禅を伝えた。主著は『正法眼蔵』。

ルギーを与える方法がありますでしょうか。

【水源師】

まず「その人は何をすれば楽しいか」と、そういうことを見つけてあげること。それで「楽しいことを続ける」と。これは「心が一つになる」ということ、「一心」。そういうことによって心が「一心」になれば、「チッタールーパ」（心の物質）といって体には二つの栄養剤がある。

達磨大師が9年間、座り続けて食べなくてもよい、飲まなくてもよいと。この前ルンビニで6年間、座った¹と。私が体験したのは、深い瞑想をやれば、食事をとらなくなるのです。腹いっぱい食べたら吐き出してしまう。結局、座ることによって、心から全身に栄養剤を出してしまう。

もう一つは食べることによって、胃の中の火があるのですね。これと「ウトウ」というルーパ。植物が分解されて体が完全になる原子となっているわけ。全く無駄が発生しない。これが大体「1・2・3・4・5・6」と分裂していくわけです。原子炉みたいにタッタッタッタターッと。

だから、そういう方向から全身でエネルギーを取るのと、もう一つは瞑想をやれば取れる。瞑想というのは「心一つ」。結局、料理でもよいわけです。花でもじーっと見ていたら楽しいと。ところが、頭が動くコンピュータゲームとかは、あんまりうまくない。

【参加者】

ゲームが好きで。

【水源師】

ゲームは非常に頭が回るのだけれども、それを一つの方向だけに集中して楽しいと。結局、一番よいのは、粘土細工でも何でもよいから、絵でもよいから、「もっとスローで集中できる」のがあれば、うまくいくと思います。

それから段々こういう本格的にもってくれば、ゲームから実際そういう状況を作らせるとか。手を動かすこと。先ほど言ったように「身口意」の方向で、何か一つだけ好きなこと、できるようなことをやっていけば、そこからドアが開いていくと思いますけれど。

その後で集中できるようになってから、ゆっくりと歩く集中法。散歩が好きだとか、山登りとか。苦しいけれど、「一心」に上まで行こうと、体使うでしょう。

¹ ラム・バハドゥール・バムジョンのこと。修道名はパルデン・ドルジェ、現在はダルマ・サンガ、ネパールのバラ地区、ラタナプリ生まれ。2011年にラタナプリの菩提樹下での6年にわたる瞑想を終了した。

そして、上がったときに、数回ワーンと気持ちがよくなる。これも一つの瞑想法で、そういうことをやることによって、体も治したという人がたくさんいると聞きました。

【参加者】

「環境を変える」とか、そういうことでなく？

【水源師】

変えることができたならよいと思います。でも、変えられない人がたくさんいるから。一番できる方法で、少しずつ健康体にもっていきることを見つけ出して、健康体のときに心を集中させる健康法をすればよいと思います。

【参加者】

瞑想方法はヴィパッサナー（観）瞑想ができる方向にもっていけばよいですか。

【水源師】

そうですね。一番よいのは皆さん「夢」を見るでしょう。夢を見て「夢を書き続けさせる方法」があります。結局、電子で反応させるのではなく、自分の「心」を入れるということで、興味がわいたら非常によい方向にいくと思います。そこからヴィパッサナーに入らせることです。徐々に徐々に。絶対に押し付けは無理みたいです。

悔しさの逆利用

【参加者】

とりあえず瞑想のことで聞きます。アナパナが一番問題になるのはアッタ（我）。過去の方に思いが行ってしまう。例えば、「終わったことを後悔する」とか「あんな人生じゃなかったら」とか。

逆に「こういう予定を立てるのだ」と、未来に心が飛んでしまうとか。未来への期待とか、大体こういうパターンで、逆に言うと「過去はこう楽しかったな」とか、過去のものすごいトラウマとかは、瞑想中に一切、出てこないのです。

そうでない過去の失敗とか、後悔とかは出てくるのですが、そういったものをなくすにはどうしたらよいでしょうか。

【水源師】

それを「逆利用」した方がよいですね。その「悔しさ」とか、そういうことの「過去を動かさない」ことです。「過去でも一番、悔しかった」、そこの自分をず

っと見つめ続けるわけなのです。直接もうヴィパッサナー（観）に入っていきます。映像でもって、じっとそこから動かない。

ずうっと観ていくときに「どうして本当に悔しいのか」、もっと深く心を観ていくのです。どんどんいって、ずうっとずうっと続けていったら「実はそういう実体はない」ということが観えてきます。

【参加者】

最近そういったことが出ると、そういう「背景は何か」みたいなことを観ています。

【水源師】

「背景」じゃなく「主題を動かさない」。あなたの場合は、直接もうヴィパッサナーでいった方がよいと思います。「アナッタ・無我」の発見は「こういうふうにして発見するのだ」と、パオセヤドーと談義しました。

「完全に理解する」、そのときに「アー悔しさというのは実はなかったのだ」と、サンカーラ（行、形成作用）が消えてしまいます。アクサラ（不善）のサンカーラがクサラ（善）のサンカーラに変わります。ということは、今まで誤解していたと。

それがちゃんと通過したときに、今度ニミッタ（禅相）をやったら非常にうまくいくはずです。アナパナも。だから、それを逆利用して避けないこと。普通は「避けなさい」とか「ないない」と言うでしょう。それは非常に過去のサンカーラが強いからできないこと。

逆にそれをずうっと観るわけなのです。だから、「夢を書きつづけてみてください」というのは、結局「アナッタ・無我」を発見するのです。「実体・私」というのがあるのかどうかということ。そこの一点をずうっと集中してやってみてください。

【参加者】

最近、「ただ単に現象が起きているだけなのだ」と、特に実体自体もないくらいに観ていくという。

【水源師】

そこを考えない。それは検証してからであって、「ありのままにずうっと見つめていく」ということ。そしたら川が流れるように感じますから。それで心も軽くなってきます。

【参加者】

逆に「もっとトラウマ的なものが瞑想中に出てこない」というのが不思議なのですが、それは大した問題ではないのかなと。

【水源師】

そうそう。逆にそういう方向に心を発したら、その心をつかむわけです。ずうっと観ていって。これを発生させるものは一体、何であるかを観ていくのです、ずうっとどこまでも。

雑念は大体2, 3秒までOK。5秒10秒になったら飛んでしまうから。「行ったな」と思ったら戻す、「行ったな」と思ったら戻す。その繰り返しでいったら、段々うまくいくと思います。

だから、普段、一番よいのは「夢をずうっと書きつづって、ずうっと見続ける力」があれば、「マインドフルネス・サティ（念）」が発生しますから。

【参加者】

自分はニミッタが出なくてダメなんじゃないかと。

【水源師】

いや、それはダメじゃなくあるのだけれども、結局まだ遮断されているのです。そのうちにありのままで観ていくようにしていけば、ありのままに観え始めますから。



ボロブドゥールと水源禅師

瞑想、因縁、ダンマ

【参加者】

そもそも「瞑想」というのは、一体、何なのかというところなのですが。

【水源師】

「瞑想」というのは「座っても立っても寝ても、静かな自分を見つめることができる」というところから始まります。「心を深く観る」ことによって、ありのままの現象が観え始めます。そして、これによって「自分はなぜ生きているか」「何のために生きているか」という深い本題に入っていくはずですが。

だから、それをやらずに「経典だけで本だけで回答しよう」と、素晴らしい哲学者の本を読んでも、それは彼の体験であって、あなたの体験ではないから、あなたがそういうのを読みながらでも、自分を再発見していくと。

「ありのままをずうっと観ていく」ことによって、先ほど言ったように、心が飛ぶとか、そういう報告ができるから、もっと進化させるためには「こうしてください」という回答ができます。だから、まずは歩いても寝ても座っても心が平安になれば大したものです。そのうちにだんだんいろいろな現象が観えてきます。

だから最初に「呼吸」ですね。お釈迦様が言ったのは「鼻から空気を入れて鼻から出す」と。「実際のことを実際のままずうっと観てください」と。そのときによって、自分というものがおぼろげながら分かり始めます。今まで考えていた自分と世の中が違うように見え始めます。

【参加者】

先ほど「ダンマ」(法)とおっしゃいましたが。

【水源師】

それが「ダンマ」。それが「法」です。

【参加者】

そうすると、その人によってそのときの「ダンマ」というのは違うのですか。

【水源師】

違います。やり方もそれぞれ一人一人、教え方がその段階によってあるのです。だから、非常にインタビューが大切になってきます。

【参加者】

具体的に「ダンマ」を教わるということよりも、そのインタビューを通じて自

分が何か実践をしてそこから。

【水源師】

料理がうまくいったと。それで次の料理に入ることになります。

【参加者】

そうすると、一生積み重ねということになりますか。

【水源師】

一生積み重ねではなく、一瞬にして分かる人もいるし、すべて運命の出遇いとか因縁によるわけです。だから、因縁によって一切が決定してしまうのです。だから、善い因縁をつくっていけば、善い因縁がどんどんできると。もし間違った因縁に入っていけば、どこまでも間違った因縁に入っていくと。

だから、できるだけ自分にとって、どれが善い因縁か。失礼になるかも分からないけれど、悪い暗い世の中のシステムに入ったら、嫌でも悪いことをしなければいけないという、どんどん悪くなっていくけれども、逆に善いことをして奉仕したいという方向にいったら、どんどん善い方向に向かっていきます。

結局、「パーラミー」(波羅蜜)¹ですね。「奉仕・ダーナ(布施)」という素晴らしい方向に行くと。また、その中でも本当に困った人に行くという最高の奉仕ができるわけなのです。

ところが、中にはオレオレ詐欺に遭って、そちらに行ってしまったたり、お金をポンと落としてしまったとか。なかなかうまくいかないですね。

【参加者】

善い因縁と悪い因縁の境とは。

【水源師】

それはやはり瞑想していけば、心が反省して、どうもおかしいとか分かるはずですよ。

【参加者】

修行をしてウペッカ(捨、静寂)の中に入っていけば、他の人たちのアクサラ(不善)も解消していくのではないかと思うのですが、具体的に社会的問題を二つ伺ってもよろしいでしょうか。一つ目は動物を狭い柵の中で飼育し、避妊手術とか、仏教的には悪いカルマだと思うのですが。

¹ 涅槃に入るための善行為、功德。

【水源師】

やはりそのとおりですね。私があるときに「動物を一切、逃がしてしまった」(笑)ということによって、次の世で何か善いダンマに出遇えました。ま、「そういうことをしなさい」という意味ではないですが。

お釈迦様は何も言わなかったのですね。体はタンパク質がないと生きていけないですからね。だから、昔カナダのインディアンは狩猟して肉を食べなければ生きていけないわけなのです。今でもお米とか麦は消化できないのですね。

だから、そういうことを考えれば、ただ食するときに「いただきます」と。菩薩行をやられている、こういう動物たちが「生命を与えてくれてありがとうございます。一つの無駄もしません。ありがとうございます」と、一言お祈りしながら、口にしなくても感謝の気持ちで頂けばよいのではないですか。

結局、死ぬ前にもう転生していますから。死んだ後の私の体を皆さん食べてくれても、私は実際、全然感じないのだから。もう他に転生してしまっているのだから。ただ物体になってしまっているから。

誰もお釈迦様のお肉は食べようとも思わないし、大切なニッバーナ（涅槃）のダートゥ¹（物質）のかたまりだから、すごい現象が起こりますが、まあ宇宙的な仕組みだから逃れられないですね。そういうふうに私たちはこの体をもっているから。こういう体をもつことによってダンマを体得できるわけなのです。

韓国の双子の中に 20 数年間、幽霊（餓鬼）が入ったわけなのです。だから、見たときにパーンと体が腫れていたのです。言ったでしょう。結局、この体があつてこそ、不可思議な世の中が体験できるのです。だから、カナダでもよく見るけれども、心空っぽにしている人は、よく幽霊が入ってしまっています。だから、自分で何やっているか本当は分からないのですね。

ところが、そういうものは宗教上、キリスト教では「ないものだ」と、「天国か地獄かその中間²」、カソリックはね。クリスチャンは「天国か地獄か」。天国に行くことができないから結局、地獄と。幽霊の界もないわけなのです。

ところが、そんなに悪いことしていないから、地獄に行けないから、ウヨウヨ幽霊がいっぱいいるのです。ところが、行法で幽霊の世界に送るかということが分からないから、ミッドランド³というオンタリオの中で、今から 100 年以上前に開拓した町があるのだけれども、そこに行ったら、川中でインディアンの霊がい

¹ Dhātu : 界、要素、舍利、遺骨という意味がある。

² 煉獄（ラテン語 purgatorium）：キリスト教、カトリック教会の教義において、小罪を犯し地獄に行くまでに至らないが、すぐには天国へ行けない靈魂が苦しみを受けながら浄化され、最後の審判を待つとされる場所及び、その状態。

³ カナダのオンタリオ州の都市。

っぱいいるのです。

その人を上げるには、やはりインディアンの血をもったチェロキー（インディアン部族）が一人いて、霊能者も二人いて見えるわけなのですね。それで行法をバーッとやったら、バーンと全部、上げてしまうわけ。

なぜかといったら、そこで高校の先生をしている女性に、夜な夜な川の幽霊たちが「この川から出してください。お願いします」と来るわけ。そののところに、ちゃんと目の前に教会もあるのです。

結局、キリスト教の世界では「そういうものはない」と、「天国か地獄か」。でも、実際は悪いことをしていなくても、幽霊がウヨウヨしてどっちにも行けないと。ところが、本当のインディアンにはそういう世界もあると。ずうっと話を聞いていいたら、ブラフマン（梵天）の世界のことも知っているみたいですね。

ところが、ニッバーナは分からない。南米であちらのシャーマンと一緒に体験したけれども、彼らは「ダンマ」があまりないものだから、その中の世界で閉じ込められているみたいです。

でも、こういう全部人工的な世界にあなたたちはいるでしょう。自然界というのは、この花のような世界であって、すべて心で造られている中にいるわけなのです。ところが、これが本当の自然だと思っているでしょう。だから、あなた方は逆にシャーマン的な大自然のそういうものを見たら、興味が湧くのですね。

でも、それを調べてみたら、結局お釈迦様みたいに、深い「ダンマ」には到達していないですね。だから、「いかにして私が死ぬ前に、ダンマのない世界に行ってダンマを伝えようか」ということが、私の先生の命令でもあり、私の使命でもあるというのは感じています。

どうしても今年は南米あたりに、アメリカに呼ばれたついでに行ってみようかなとは思って、ちょうどブータンの話が消えたから、時間の余裕があるからね。やはり私はミッシヨナリー¹が非常に大切だと思っています。

そのないところにどんどん行って「少しでもお釈迦様の素晴らしい果物を与えていかなければいけない」と、私は考えているだけなのです。それは私がそういう時間的・体力的に余裕がありますからね。まあそう考えているのですけれども。

現代病の原因と対処法

【水源師】

すべてやはり心の痛みというか、心をいかにして本当の方向を見せてしまったら、そういうものは全部、自分の妄想であるということが分かったら、きれいに治ります。だから、その前提として、まず瞑想の方法を使うとか、やはりインタ

¹ Missionary : 伝道師、ダンマを伝える。

ビューが必要で、少し少しインタビューから解き放していけば、必ずや善い方向に行きます。

児童心理学とか、あれもある程度はよいのでしょうけれども、お決まり文章で、実際に体験なくして本で読む「**Second-hand Knowledge**」(間接情報)になるわけです。「**First-hand Knowledge**」(直接情報)は、実際そういう現象を見た先生方が本に書くのだけれども、そういうことができないものだから、普通の幼稚園とか学校の方々は、その本を参考にしてやるものだから、今、非常に学校問題が発生して、子供の問題が発生しているわけ。

ところが、昔は「近所仲間」というのがあって、おじさんからお話を聞いたりして自然体でしたものだから、その中でルールが分かるし、「引きこもり」ということもないわけだ。なぜかといったら「今日、遊びに行きましょう」と、トントコ皆で行くし、ドア開けて入ってきて「一緒に食べましょう」と。

今それがないものだから。こういう「社会病」が発生してしまう。これは「個人病」ではないと。だから、「老人病」というのもすべて「アルツハイマー」なんて起こらないわけなのですよ。

なぜかといったら、ミャンマーである村に行ったら、バナナの木があるエデンの園があるのです。泥棒もいないし皆、分かって。心が何もないから、病気一つしないし、90歳のおばあさんが60代の肌だし、ぴんぴんと歩いています。

結局、そういう環境問題も非常に大切だと思います。私が小さいときは、山は全部、杉だらけ。「花粉症」なんてないわけなのです。

私がどうもおかしいと思うのは、さっき言った **HAARP**(ハーブ)みたいに **Micro Wave**(マイクロ波、極超短波)を発射した場合には、体内に変化を起こして当然、皮膚が防げるものが防げなくなって、「花粉症」というのが発生するのではないかと考えています。

なぜかという、**HAARP**のそばに住んでいる人は「まず頭をやられる前に、アレルギーが非常に多く発生する」と。そういう報告書があるわけなのです。

今、携帯電話を皆やっているでしょう。あれは全部 **Micro Wave** でしょう。**Micro Wave**のネットがなければ、携帯は機能しないはず。数メガヘルツの **Micro Wave**で、私たちは完全に皆やられているわけ。

カナダの北は600 km 行ったら電話が通じないのです。そこで一週間、暮らしたら心身諸々、別世界。トロントに帰るとき、暗いドームに見えて「こんな中に入っていくのか」と。強烈な **Micro Wave**の中に入っていくという。

だから、私は日本に来て、何か外に出ていきたくないのです。家の中にじっと閉じこもって遮断して、そんな感じですね。(笑) 私は全部、杉だらけの中で生

きていたのに発生しなかったのだから。

だから、そういう検証もやはりデータがないものだから、科学者、医療関係の方は勝手に言えないし、現状として、だから黙っているしかないと思いますね。私の場合、自由に勝手に言える立場で。(笑)

たぶん「公害問題」も、Micro Wave が非常に影響していると思います。電磁波は熱を発生させますからね。いつも Cooking (料理) しているみたいにね。私たちの皮膚も微妙に Cooking されているはずだし。それでまた粘着性が強くなったりして。そんな感じがしますね。

丹田の瞑想から

【参加者】

瞑想していると、自分の心が高いところにトリップしていきような感覚があるのですけれども、それ以上、高いところに飛んでいっても、自分の体がついていけないというか、自分の体に震えとかが出てくるのですが。

【水源師】

それで丹田の瞑想に戻ってください。それはヴィパッサナー（観）の方に入っているはずですから。それを後でやるように。アッタ（我）・アナッタ（無我）のときに自分ということが入ってきますから、そこに入る前に、もう少し数息観とか、そういうことを非常に我慢して1年間。

私ももう42年間やっていますから。まあ宇宙の法則というのは、何でも時間がかかります。40年、50年。だから焦らずに、半年でも3カ月でもやって、また「じーっと自分を観る」という方向に。

【参加者】

そうすると、「力が足りない」ということでしょうか。

【水源師】

そう、お坊さんでもその状態です。だから全部、数息観に戻すようにしていますし、数息観が完全にできた方は、今度、逆にヴィパッサナーをやります。さっき言ったように、自分を観てもらおうと。現象によってそれを解析して、どこを観てもらおうかという手法をとっています。それを全部、解決したときに、あとはニミッタ（禅相）が非常にうまくできるはずですよ。

【参加者】

その原因は何なのでしょう。

【水源師】

やはり自分で自分をつくり上げているという。自分というものの正体ははっきり分からないけれど、自分と。そこのあやふやさをしっかり観ていくと。

【参加者】

分かりました。ありがとうございます。

仏教と他宗教

【参加者】

仏教の先生に、こういう質問をするのはおかしいかもしれませんが、仏教は確かに素晴らしいと思うのですが、ほかの宗教で救われるとか、涅槃に入るとか、涅槃という概念がないかもしれませんが、それと同等の境地に入るとことはあり得ないのですか。例えば、キリスト教だったら信じれば救われるとかあるじゃないですか。

【水源師】

この世の中で「サルベーション」（救済）は二つだけ。仏教とキリスト教。ヒンズー教は「サルベーション」なし。神と人間の断絶があります。神は永遠なるものです。ところが、「サルベーション」というのは、キリスト教と仏教だけ。

ただキリスト教の場合は「過去もない未来もない」と。350年あたりか、「ナルシアコンフレンス」（第1ニカイア公会議）¹とあって、そのときに今のシリアのBishop（僧正）と東ローマと論争したわけです。それで負けて「過去も未来もない」と、「一代で終わり」と。そこから来てしまったわけです。

だから、頼るのは本当のところ、ついているのは仏教しかないのではないですか。特に私が今回、体験した護摩焚きで、すべてピラミッドに関係してしまうのですね。ピラミッドといえば、エジプトそれから、インカピラミッド。ブータンでもインターナルピラミッド²を使っているわけなのですね。

インターナルピラミッドはメンドウ³の胎蔵界、三角になっていますね。それか

¹ 325年5月20日から小アジアのニコメディア南部の町ニカイア（現トルコ共和国ブルサ県イズニク）で開かれたキリスト教の歴史で最初の全教会規模の会議（公会議）。アタナシウス派とアリウス派のどちらを正当とするかの論争でアリウス派を異端と決定し、皇帝がキリスト教の教義決定に介入する嚆矢となった。

² 内側がピラミッド形で空間を作っている。

³ Candi Mendut（チャンディ・ムンドウ）：ボロブドゥールから東に約3kmの場所にある仏教寺院遺跡。かつてはボロブドゥールとムンドウとの間を一直線に結ぶ旧参道があったといわれている。すぐそばにパンニャバロ長老のお寺がある。

らロロジョングランのところに、ちゃんと昔の遺跡があったけれど、やはりインターナルピラミッドになっています。

エクスターナルピラミッドは外からのピラミッド。驚くべきことにポロンナルワ、昔の密教聖地はインターナルピラミッドを作っているのです。

【参加者】

「護摩焚き」というと、ヒンズー教もありますね。

【水源師】

そうです。その発祥がペルシャのゾロアスター¹。一番、古いことから発生しているというけれども、今回、完全に明快に分かったことは、火の火天が最初に出てきます。キリスト教の経典・バイブルを読んだ場合には「bush fire」(燃える柴)、それが神になっています。

私が9年前にビジョンで観た「ボロブドゥールの玄関の前に立っていた」のは、まさにキリストの大神様が白い服を着て立っていたのです。仏教の場合でも、彼(火の神)だけが老人で、あとはすべて若い。その象徴は「三角」なのです。「三角」というのは「ピラミッド」のこと。



ボロブドゥールの浮彫

¹ ゾロアスター教：古代ペルシャに生まれた世界最古の宗教の一つ。祭壇の聖火を善神の象徴とするので、「拝火教」ともいわれる。

【参加者】

最近、思うのは、発展途上国へ行くと、経済的には貧しくても、本当に純粋にヒンズー教を信じていたり、キリスト教を信じていたりとか、そういう人たちを見ると、「ああこの人たち救われるのではないか」と思うのですね。

それは別に仏教でなくても、例えば仏教でも「南無阿弥陀仏」と、本当に信じていれば救われると思うし、同じように仏教でなくても、キリスト教でもヒンズー教でも、ほかの宗教でも「ダンマを知らなくても救われるのではないか」と思う人が結構いるので、それはどうなのかなと。

【水源師】

その問題は私もそう考えていました。「すべての信心はすべて一体である」と。「それは全く何を信じても関係ない」と。特にイスラームの方も非常に熱心ですよ。私の前では聖人君子みたいに振る舞うけれども、内容を見ていったら、最後「ダンマ」がないところで崩れ去るわけですね。

確かにインドに行っても信仰心が篤くて、ジャイナ教¹でも熱心にやって本当に私もそう思うのですが、神と人間の断絶があるわけなのです。ある程度まで行ったら、また「インドラ（帝釈天）の網」²から出られないようになっている。

この「インドラの網」「大梵天の網」というのは「1・2・3・4・5」と、ダーツとつながっているから、一つだけ破ってこの網からは出られないわけ。またサンカーラ（行、形成作用）になって輪廻。今の世で救われるようになって、ある程度よいかもしれませんが。また天界に生まれるとか。

でも、神と自分の断絶があるから、結局ブラフマー（梵天）になっても蟻になってしまうとか、おかしいことが発生してしまう。

なぜかといったら、究極のヒンズーのとは「卵」³なのです。究極の世界では「卵」でしか表わせません。それをあなたはどういうふうに見えるかと。今、数学的に球体が「卵」になるという方程式はない。どうしてこれが発生したか誰も分からない。

¹ マハーヴィーラ（ヴァルダマーナ<前6世紀-前5世紀>）を祖師と仰ぎ、特にアヒンサー（不害）の誓戒を厳守するなど、その徹底した苦行・禁欲主義で知られるインドの宗教。「ジナ教」とも呼ばれる。

² 因陀羅網：『華嚴経』「如来昇兜率天宮一切宝殿品」などに出てくる言葉で、帝釈天の宮殿を飾る網。その無数の結び目一つ一つに珠玉があり、互いに映し合うことから、一切のものが互いに障害とならず関連し合うことにたとえる。帝網。

³ 宇宙に何も無い時代、姿を現す前の彼は水を創り、その中に一つの種子「黄金の卵（ヒラニヤガルバ）」を置いた。その中に1年間とどまって成長したブラフマーは卵を半分に割り、両半分から天地を初めとするあらゆる物を創造したといわれている。

これが「一切唯心造」という現象で仏教では見るのです。見えるか見えないかという、この大きな違いがあるわけです。だから、ヒンズーでは、そこで止まってしまう。ヒンズーの奥義を探してみてください。「卵」でもあるから。

ところが、仏教はそこを通過してしまいます。ただ、そういうことに行かなくても、(過去世で)お釈迦様がダンマを聞きたいために「ダンマを教えてください」と。そうしたら、ブラフマーが「あなた火の中に飛び込みなさい。そしたら教えてあげます」と。(お釈迦様が飛び込むと、ブラフマーは)「ダンマは人のために尽くしなさい」と。

これを体得するために「火の中に飛び込んでいく」という代価も要求されるわけです。それだけその「ダンマ」というのは簡単なようだけれども、宇宙的なもので、実に深いわけなのです。

「この宇宙は実際、カルーナ・メッタ（慈悲）でできている」ということなのです。だから結局、観音様を信仰して間違いのないわけなのです。メッタ（慈悲）そのものだから。

【参加者】

キリストも「愛」を説いていますが。

【水源師】

そうです。キリスト様も「シャンカールゴンパ」(Shakar Gompa)¹で、ずうっと瞑想したみたいです。ラダック。結局、彼の名前は、チベットの中では比丘になった「イッシュャー」(Yhoshua)という名前で登録されているみたいです。

それを1980年代に、ダライ・ラマが「キリスト様は比丘になった」という経典をジョン・ポール・セカンド(John Paul II)²に持っていったはずです。だから、1602年から1600年代に、パチカンからミッシヨナリーとして、チベットのラサに人を送っているのです。

何を送ったかといったら、チベットで『チベット大蔵経』³をつくると、それを聞きつけてミッシヨナリーをもう送っているわけです。47年かかるというから、

¹ レー（インド北部、ラダック地方最大の中心都市）郊外の山側へ約2kmほど行った場所にあり、ゴンパ(Gompa)とはチベット仏教で「僧院」のことを指す。現在、イエス・キリストの時代とは全く様式が異なるが、20世紀初頭にバクラ・リンポチェ18世が建てた小さいゲルク派のゴンパがあり、この裏で修行したといわれている。

² ヨハネ・パウロ2世(1920-1978)：ポーランド出身の第264代ローマ教皇で、本名はカロール・ユゼフ・ヴォイティワ。

³ 8世紀末以後、主にサンスクリット語仏典をチベット語に訳出して編纂されたチベット仏教経典が集成されたもの。

40 年後にもう 1 回、行ってできるまで待つて、『チベット大蔵経』ができたならバチカンに持って帰ったわけです。

キリスト教の世界ではコンフェッション（自分の過ちを報告すること）、あれはチベットしかなかったのです。だから、400 年後にその体制ができて、昔からではない。

というふうに、私はキリスト教の世界の中に生きているから、そういうことを全部、調べられるけれど、現地に行ったら「Second-hand Knowledge」（間接情報）で、非常に曲がって伝えられることもあるし、ないものがあるように、あるものがないようにと。そういうことで、やはり現地報告と照らし合わせて本当の方に行けば、心も素直に進化していくと。

【参加者】

「空」を通過するとはどういうことなのでしょうか。

【水源師】

やはり「空」の体験。なければ、それで質問されます。最後のページのところに、ちゃんと書いてあるから、その関係がどうなっているか、はっきり観なければいけない。

【参加者】

ありがとうございました。



2012 年 12 月 28 日 満月の護摩焚き

出家と在家

【参加者】

自分は瞑想会に興味があったご縁で、こちらに来させていただいているのですが、別に仏教を勉強しているわけではないのですけれども。そういう仏教の関心がある一方で、普段の生活とか、自分の将来とか考えて、自分は独身なのですけれども、「いずれ家族がほしいな」とか思ったりするのですが、家族とかもったりすると、それなりにそれを守るために働いたり、そこにかなり力を注がなくてはいけないので、「仏教だけ学ぶ」と、それと「家族をもつ」というのは力を使うというか…。

【水源師】

やはり社会を自分の家族にするか、町の人を自分の家族にするか、小さい意味で自分の奥さんをもらって家族にするか、それでも自分の親族一同を自分の家族にするか、それは個人的なビジョンの違いで、その中で楽しく明るく生きていければ、もう最高だと思います。

それで、そこにこそ「仏法の真髓」があります。楽しく明るく「仏法のダンマ」が得られれば、これは最高の方法で、結局、家族が修道院になったり、家族というのは、嫁さんをもらって子どもをつくるという既成観念であれば、それもそれでよろしいし、その中で楽しく明るく「ダンマ」が得られれば、それが結局、「仏法の真髓」だからです。

『ダンマパダ』(『法句経』)¹に、よくそのことが書いてありますから。結局、本だけとか座るだけではなく、仕事をして、お釈迦様が来るから一生懸命、働いて会おうと思ったけど、もう少し仕事ということで、何かの拍子に板にパーンと当たって死んだらしいです。

それで、お釈迦様が「あの方はもう阿羅漢になられて涅槃に行きました」と。だから、「仏法はどこにでもある」ということをお釈迦様は言われています。

【参加者】

「出家」というシステムもありますね。やはりそれは「仏法に専念される」ということ。

【水源師】

そうですね。やはり「すべてを皆様に捧げる」ということ。「自分というものは

¹ 原始仏典の一つで、釈尊の語録の形式を取った仏典。語義は「真理の言葉」といった意味で、原始仏典の中では最もポピュラーな経典の一つ。『スッタニパータ』とともに原始仏典の最古層の部類とされる。

一切ない」と、「すべてを捧げて、いかにして神仏にお使いできるか」と、それだけのことです。それは修道院に入らなくても、比丘にならなくても、できるわけなのです。

ただ世間でこうした方が都合のよい場合が多いから、私の先生は「おまえはそのまま続けてください」ということであって、私としては在家でいたかったのだけれども、「そのままやってください」ということで、続けているわけです。

一切唯心造¹

【参加者】

先ほど「一切唯心造」とおっしゃいましたが。

【水源師】

すべてのこの大宇宙の本当の姿は心で造り上げられているわけです。

【参加者】

そうしますと、例えば、ある宗教によっては浄土というものがある。

【水源師】

もちろん。その上の非常に高いところです。本当の現象はその世界です。

【参加者】

それは「ニルバーナ」（涅槃）ということですか。

【水源師】

まあ、それね、頭でこう、大乘だけが「ニルバーナ」について、いっぱい語っているけれども、テーラワーダ（南伝）では言わないですね。結局、そこで体験がないのに一生懸命、教えとするよりは、そこに直接入って飛び込んでもらった方がよいわけなのですね。

末期がん患者への慈悲行

【参加者】

末期がんの患者に対して、瞑想もできないような状況なのですね、たとえば、何かメッタ（慈悲）を送るぐらいしかできないのですね。

¹ 18 頁・脚注 1 参照。

【水源師】

そうですね。やはり暖かい手で握ってあげるとか、「心と心をつなぐ」ようにしていけば、やはり善い結果が出るのではないですか。非常に苦しんでいるけど。やはり「心配しないで。来世は善いところに行きますから」と。

というふうに、優しい言葉を掛けてあげて、「いかにして生命体を美しいところに導いて行かせるか」というところが非常に大切だと思います。

ということは、私たちはカルーナ（慈悲）の力を受けて生かさせてもらっているから、やはり「いかにしてそのカルーナをお伝えして、次の素晴らしい世界に行ってもらおうか」ということに尽きるのではないのですか。これが「ダンマ」だと思います。

【参加者】

眠っている状態で、例えば心で語り合っているという形でも、そういうことしかできない状況だとしたら、

【水源師】

大丈夫です。そのときに手を握ってください。手を握ってさすってください。そして語りかけてください。ちゃんと分かっています。

三十七仏¹

【参加者】

先ほど、レディセヤドーが「三十七のブツダ」についておっしゃっているのですが、テーラワーダでは「二十三、二十八仏²」とはよく言うのですが、あと残りの「九のブツダ」というのが、もし分かったら教えていただきたいです。

【水源師】

はいあります。それは驚くべきことに、結局、韓国のお坊さんが有名なマハーヤーナ（北伝）のお坊さんです。山下さんもその方を 2006 年に訪ねていったみたいですが、韓国のお坊さんはそこで 4 年間、何を学んできたかと言ったら「もう韓国語とチベット語はほとんど同じだ」と。自由自在ですべて分かるわけ。

ある経典を發表しようとしたけれど、私の弟子が止めたわけ。「それは口外してはダメです。大変なことになるから」と。という非常に有名な方がいて、その人

¹ 11 頁・脚注 3 参照。

² 作欲、作慧、作依、燃燈、嬌陣如、吉祥、善意、離婆多、所照、高見、蓮華、那羅陀、蓮華上、善慧、善生、喜見、義見、法見、悉達多、帝沙、報沙、毘婆尸、尸棄、毘舍浮、拘楼孫、俱那含、迦葉、釈迦（以上、「仏」の敬称略）。

が何を学んだかといったら「三十七菩薩」なのです。

それでピーンと来たことは、「三十七仏」と言っているけれども、実はこのことであると。ということが護摩行で「三十七仏・菩薩」が書かれているのだけれども、このこと。それでピーンと来て、やはり数えたら「三十七」ありました。そのマントラもあって、それで護摩行をやったわけなのです。

驚くべきことにテラワードでは「二十八仏」しかいないのですね。「三十七仏をちゃんと習得した場合には弥勒菩薩を待たなくてもよい」と、『Manual of Nirvana』¹に書いてあります。それで驚愕したわけなのです。なぜテラワードが「二十八」なのに「三十七」なのかと。

それも彼（レディセヤドー）だけがジャーナ（禅定）について、明快に答えているわけですね。私が体験したジャーナで、ちょっと分からないことがあって、不可思議に思っていたところを彼だけが明快に、誰一人も解説していないのに、ちゃんと経典に書いてあるのです。

それで「彼は完全なる阿羅漢だ」と。これは私自身としては言えないしね。でも、見たら彼がちゃんと明快に説明していました。それで「彼が言っていることは、大変重要である」と。サガインというのは、マンダレーの近くにあって、そのマンダレーはすべて密教のお寺なのですね。

私の見たところによると、そこに一つバガンにも「浄土」の情景に近い絵が書かれてあります。それで驚愕して、そこをまざまざと何回も見に行きましたけれども。バガンには、やはり巨大なピラミッド型で、一つの寺院もできていました。トップは、やはり実態はオベリスク式²でこうなっていました。

チベットで有名な山・カイラス山は遠くから見るとオベリスクなのです。入って「あら一つ」と思って。四つの方向にちゃんと山があって、それでどうしてもチベットに1000年前に行った、インドの最初の1代目のリンポチェが（名前は忘れましたが）、1000年前ボロブドゥールで13年修行して、インドのヒマラヤではなくカイラス山ではなく、カイラス山の方は摩訶迦葉尊者・マハーカッサパ尊者³のブーランと関係があるみたいだけれども、その足跡を見てきましたけれども。

¹ レディセヤドーの著書。

² オベリスク (obelisk) : 古代エジプト (特に新王国時代) 期に製作され、神殿などに立てられた記念碑 (モニュメント) の一種。ほとんどは四角形の断面をもち、上方に向かって徐々に狭まった、高く長い直立の石柱である。先端部はピラミッド状の四角錐 (ピラミディオン) になっていて、創建当時はここが金や銅の薄板で装飾され、太陽神のシンボルとして光を反射して輝くようにされていた。

³ 大迦葉 (Mahā-ka-śyapa) 尊者 : 釈迦十大弟子の一人。釈尊の死後、初めての結集の座長を務める。「頭陀第一」といわれ、衣食住にとらわれず清貧の修行を行った。

私はミャンマーの方からシャングリラの方からずっと、今のラサの方に上がっていったような気がします。そこから今度、逆に下りたか、ブータンとかネパールとか。バングラデシュも山の方に行けば、私みたいな皆、中国人の顔になるのです。南の方に来れば、インド系の顔をしていました。山の方に行けば、今でも仏教を守って南伝仏教、スリランカによく修行に来ていました。

【参加者】

ということは、レディセヤダーの『Manual of Nirvana』に書かれているということですか。

【水源師】

その中に「三十七仏」のことが明快に説明してあります。それで、もうそこで驚くべき発見をしたのですね。

マインドフルネス

【参加者】

「マインドフルネス」というのは、どういう状態のことですか。

【水源師】

「マインドフルネス」、結局「心が楽しく集中できる」と、「それだけもういっぱいになる」と。明るくきれいで美人（笑）、AKB48 をサティに「心で一点に集中して見る」ということが「マインドフルネス」。それを「サティ・念」と言いますね。

「気づき」はまたダンマ。「あっ」と思うのがダンマ。「パンニャ」（智慧）の力が発生して「気づく」と。そういうことになります。

姿勢を決めるポイント

【参加者】

最近、瞑想をしていて集中すると、前かがみになっているようで、いろいろ調べてみたら、丹田呼吸を意識し過ぎて、前かがみになっている気がするのですが、「姿勢」というのは大切ですね。

【水源師】

いや、心が明快にはっきりしていれば、「姿勢、曲がっているな」と思ったら戻せばよいだけで、あまり大きく重大に考えることはないと思います。

【参加者】

集中していった姿勢が前に行って、姿勢を元に戻そうと思うと、集中が途切れてしまっ

【水源師】

それでは、椅子の角度を変えたらよいです。高くするとか。自分の体形に合うようにやった方がよいです。無理して、きっちり結跏、半跏でやっても、そちらの方に心が移ってしまって、実際に心がウペッカ（捨、静寂）の方に入っていないのですね。

一番大切なのは「いかにしてウペッカの方向に入っていくか」と。ウペッカに入ったら「三十四刹那心」¹になりますから。クサラ（善）の状態になるわけですね。クサラの状態になったら妄想とかが入らないから、ニミッタ（禅相）が出やすいはず。それで集中力を高めていくということで、行法によっては、教える先生によっていろいろ違うと。パオでは非常に厳しくて長時間、座らせます。

だから、角度を変えればよいだけです。「後ろを変えたら自然にこうなってしまう」とか「逆に後ろを落としたら正常に」という、自分のよいと思うところでやってみてください。

実践仏教（体験仏教）と経典仏教（理論仏教、哲学仏教）

【参加者】

「スニャータ」（空）と「第八禅定」は一緒でしょうか。

【水源師】

「スニャータ」は空です。空を観るために禅法では公案とか、ただ座るとか、その中でサンカーラ・ウペッカ（行捨）からずうっといけば、空の現象に突き当たることがあるわけです。

パオでなぜヴィパッサナー（観）をやらせるかといったら、空を観なければいけないわけです。結局、その前にもう「第八禅定」、それを全部やってしまうのです。それと空とは全然違う。という「第八禅定」「第五禅定」（無色界禅）というジャーナ（禅定）の世界をやって、体験してみてください。それは言葉では絶対、分かりませんから。

「第四禅定」「第五禅定」「第六禅定」というのは、ニミッタ（禅相）を使って入っていきます。ニミッタの力がなければ、入れないわけです。まあ最後のパオ

¹ 善心の34種の要素。意識1種、共浄心所19種、共一切心心所7種、雑心所6種、慧根1種で34種になる。

のところもスニャータ・空を通過しなければいけないから、全部教科やっても、そこを何回でもやらせるのです。その人たちがまず体験してもらわなければいけないですね。

だから、理論仏教と実際の仏教とは全然、違うということ。そこからまず分かなければ、理論だけではこの世界は見えないわけ。なぜかといったら、理論を証明するのは、今最高なものは物理化学のそういう手法しかないわけ。

ところが、心の世界は無限の速さで解析できるから、そういう電子の速さは、この空間時空では1秒間30万kmでしょう。てんでお話にならないわけ。それすら光をストップさせるくらいの力あっても、まだ無理なわけ。結局、瞑想に入っていったら、ほとんど時間を止めるくらいにしてしまいますからね。そこで初めて現象が分かるから。

だから、その現象を観ない限り「あーだ、こーだ、何だ」と言ったって、それはすべて空論になります。分からないものを分かったようにして理解しているから、全くの無駄。経験できないから、この方法で追い詰めていくと。

だから、空を分かった人間は簡単にニミッタも出るし、サーッと行ってしまうということ。それで証明できると。

だから、チッタヌパサナー（心随観）とダンマヌパサナー（法随観）は、一体になっているということ。「理論仏教」と「体験仏教」と全然違います。

忘れましたが、「スニャータ」と「第八禪定」とは全く関係ありません。

【参加者】

「菩薩の生き方」は。

【水源師】

それ自体も涅槃の世界を観れば、完全に分かります。ニッバーナ（涅槃）の世界に入れば、その成り立ちが完全に分かります。

結局、「菩薩というのは一体、何であるか」。菩薩の体験をして初めて分かることであって、それを「菩薩はこうである」「仏はこうである」ということは、経典の頭で入れたことであって、実際にどうなっているかは、ほとんど全く違うことです。書ききれないです。

本を読んで仏教が分かるというのは、手始めではよいけれど、それを深く考えて、今のようにパチパチではダメなのです。パチパチでいって瞑想に入らなければ、これが何であるか体験できないようになっている。

だから、ティピタカ（三蔵）を全部、丸暗記しても、瞑想できないわけ。お釈迦様の教えとどういう因果関係があるか、自分で検証していかなければいけ

ないのです。

それをむやみやたらに盲信的に信じてやって、この人が本当に菩薩の力があるんだったら、簡単にあなたをニッバーナの世界に連れなければいけないのです。それも見せることもできずに、ただ言っているのは空論であって、ただそのテープレコーダーのリピーターだから、涅槃の世界も観えないと。

それで語るというのは、ほとんど時間の無駄だし、考えることも無駄だし、それよりはただずうっと座って、自分の心を見つめていって進化した方が、まだ早道です。

【参加者】

「日本の仏教」というのは。

【水源師】

「日本の仏教」というのは、あなたが言っている「日本の仏教」であって、日本には素晴らしい瞑想者も隠れていっぱいいるはずですよ。

ただ本に出た仏教を「日本の仏教」と言っているだけであって、結局、私を教えてくれた護摩焚きの方は 8000 回、護摩焚きをやって、素晴らしい行をもって、私の観た体験全部、知っているわけです。同じ体験している。

「それを本に書け」と言ったって「不動明王が火から出た」それだけで、あなたは観てないものだから、ただ絵で想像するだけで、実際観るのと想像とは全然違うわけなのです。

結局、「大乘と南伝は違う」と、あなたは言っているのだけれども、違うところは一つもないのですね。なぜかといったら、この前、中国に行って、手に入った『達摩多羅禅経』¹を見たら、南伝仏教と同じことを言っているわけなのです。テーラワーダ（南伝）のブッダゴース²と同じことを言っている。だから、観ないで勝手に決めつけるわけだ。「南伝はこうである」「大乘はこうである」と。

それで今回、通度寺³のお坊さんに見せたら、「このお経、私たち持っています。知っています」と。だから、通度寺の大和尚さんが 30 数年前に私を見て、認可証を書いてくれたのです。今回それを確かめるために、私に会いに来たわけです。

¹ 東晋の仏陀跋陀羅（359-429）の訳。達摩多羅と仏大先が著したもので、禅定三昧に入る方法としての数息観、不浄観、十二因縁観などの観法を説く經典といわれる。

² Buddha ghosa(5 世紀頃): スリランカの南伝上座部大寺派の比丘で、『清浄道論』の著者。

³ 大韓民国慶尚南道梁山市下北面にある仏教寺院。韓国仏教の最大勢力宗派である曹溪宗（大韓仏教曹溪宗）の寺院で、三宝寺院や五大叢林（靈鷲叢林）に名を連ねる。仏舎利が安置されていることから「仏宝寺刹」とも呼ばれる。

この方は瞑想 60 年。もう未来が観えるから、そのとおりになっているかどうか見に来て、全く違うこと、パオセヤドーと同じこと言っていました。

ただ一般としては、そう言ったら雲をつかむようなものだから「南伝でこれからいきましょう」「大乘でいきましょう」ということであって、結局スニャータはスニャータ、空そのもの。だから、どの手法でも空を通過しなければ、パオを通過したことにはならないことになります。

涅槃というのは、直接ニッバーナの世界に行って、仏界に入っていくから。そこには「仏界からまた戻って菩薩行をした」というけれども、テーラワーダでは「あり得ない」と、大乘では「あります」と。

この論点は結局、観音様はその昔、「正法仏」¹だったとか（名前は忘れちゃけど）。「今、2 回目のブッダを修業している」と。「盧遮那仏陀は 10 回、仏陀になった」と。「大日如来・毘盧遮那は 1000 回、仏になった」と。想像を絶する世界なわけです。ということは、1000 回、菩薩行をやっているわけ。

だから、南伝の方は「1 回、仏になったらもう関係ない」と。ところが、今回、分かったけれども、お釈迦様の舍利を納めている頭の骨とか、すごい骨が納まっているスリランカのお寺の前に座ったら楽しいですね。ワーンと映像が観え始めるのです、ダーッと。それで私があるとき、こう座っているときにお釈迦様の映像がパパパッと、今、考えれば「三十七仏」だったのですね。それを観せてくれるわけなのです。だから、仏教というのは奥が深いわけなのです。

だから、「龍樹菩薩（150 頃-750 頃）が 600 年、生きた」と言っても想像できないでしょう。今回、ウ・コビタさん探して、マグウェ²のミンブに行ったけれども、本人は 1046 歳、生きているわけなのです。また、758 歳のウ・パンディッタさんに私は頭を付けてみたら、私の場合はルーパ（物質）が分かるから。

結局、パオで修業しているときに事細かに天界のことを聞かれるのですよ。「天界の物質はどういうふうにできているか」と。「どういうふうな姿で暮らしているか」と。私の場合には非常に詳しく聞かれます。だから、私が体を付ければ、ルーパ・物質が分かるわけです。幽霊（餓鬼）界の物質と人間界の物質は違うわけなのです。

だから、宇宙はいろいろな仕組みでできているから、私たちの限られた一般情報では説明できないようになっていきます。体験でしか分かりません。そこがまず間違っている。

¹ 観世音菩薩の過去の仏名は「正法明如来」、未来の仏名は「普光功德山王如来」（普光功德山王仏、遍出一切光明功德山王如来）といわれる。

² マグウェ（Magway）管区：ミャンマーの行政区画。

それを「ある程度そういうものがある」というレッテルを貼って分類するのはよいのですよ。それは分類学なわけ。分類学が将来、体験していくときには非常に役立ちますね。私は分類学も何もしなくてテラワードに行ったら、すぐにスーッといっちゃったわけなのです。

結局、空前のことで誰もいなかったわけ。いまだに誰も出てないわけ。日本からもアメリカからも誰も私がやったことは、いまだに誰もしていません。はっきり言いますと。

分からないから「涅槃」だとか「色即是空」だとか「受想行識」だとか「十八の本」があるとか、私がそれを読んだら、頭がくらくらして痛くなっちゃう。

ところが、体験してしまえば、「アーなんだこういうことなのか」と、非常に明快に分かります。本当にやっている人は影にいますけれども、表面に出ている人が「ただ日本はこうである、ああである」と、本当にでたらめ。

私の小さいときの日本と今は全然、違いますよ。だから、私が田舎に帰ったら「あなたは博物館から出てきた」と（笑）。という昔を知っているわけなのです。だから、根底のない仏教をこうだと言って、はっきり言って「まやかし」ですね。

私の見た日本とは、全然違う世界になっていますからね。私がもう 40 数年前に出て行って、今の日本とその時代では、考え方も思想も全く違ってしています。そのときは、まだ仏教の力が深くて「いかにして助け合う」と、昔の人の方がとっても強かった。どこの家でも、どこに入っていくとも、すぐ食事が出てくるし、今はもう泥棒が来るかを見て、怖がるくらいでしょう。

そのときの人たちは「本当の日本仏教」は信じられるけれど、今は「これが日本仏教だ」と言っても、これだけ社会を無茶苦茶にしておいてから、本当に言えるのですかね。

だって、「学校のいじめ」とか、あり得るわけがないでしょう、仏教を教えたなら。それがどうしてこういうことが発生するのに、「日本の仏教だ」と。

私はこの人たちに責任を問いたいですね。でたらめに「仏教はこうだ」と「哲学」書いて、ますます混乱させて。この罪は大きいですよ、はっきり言って。断罪したって平気だろうけれども、「次の世で大変になる」ということだけは言っておきたいですね。「好き勝手にやったって、この罪は大変ですよ」と。

ただ、あなた方がそういうふうに使われて、「そうである、こうである」という無駄な時間はやめて、ただ楽しんで、おいしい物でも食べて、花でも見ている方が得ですと。桜の木の下で、お酒一杯やって、心豊かにした方が、この日本文化が余程あなたにとって得ですと。

私にとって日本の酒は世界一。(笑)それに日本の温泉はまた最高。ないからね。

その中でゆったりと、「アー素晴らしい」と、「世界最高の文明をつくった国」ですよ。

それを「アメリカナイズ」とか、変なものを着て無茶苦茶にして、学校や精神界を荒らして「引きこもり」とか。これ全部「社会病」。

宗教人こそしっかりしなければ、こういう状態が起こるわけなのです、はっきり言って。実際は「金に明け暮れて働く」ということもないわけ。ミャンマーの「パラダイス」に行って、初めて「パラダイス」というのはこのことだと。

税金払う必要がないからね。お米は裏に田んぼにいっぱいあるし。昏々と素晴らしい水が湧き出て、それを飲めばよいから、プラスチックボトルを飲まなくてもよいわけ。昔の日本はそうだった。私はどこの山に行っても、田んぼを歩いても、すぐ口をつけて水を飲んでも、下痢一つしないし、ぴんぴんして歩き回って。

だから、こういうふうに「ダンマ」を崩してった結果が、今の日本であるわけなのです。だから、ここで皆さんが、いちはやく「ダンマ」を取って「いかにして自分の周りの人も同じ楽しく愉快に平和に」、そして、できれば「お釈迦様の一言でも学ぶ」と。これは「最高の宇宙の叡智」ですよ。これが「幸せ」です。

それを「今の日本仏教」は西洋哲学にだまされて。韓国で最高にやり合ったのは、7年間リンポチェのニンマ派の弟子だという方、「慈悲の瞑想を教える」と。

そして、「慈悲の瞑想」は「ブラフマ・ビハーラ」（四梵住）¹の中で出ているのに、ダライ・ラマさんが最初に私に言ったことは「四界分別²をしっかりと勉強してください」と。

あまりにもおかしい教え方をしているもので、「ブラフマ・ビハーラ」を完全に作り替えた哲学者の息子らしい。フランスの有名な哲学者の「リカルド・マイケル」といったか。（聞答を）バーッとやり合って、彼が「四界分別」、回答できなかったわけです。

私はとてもびっくりして、また（リンポチェもそばにいて、）彼も回答できなくなった。ダライ・ラマさんが私に「このこと（四界分別）をしっかりと勉強してください」と、35・6年前に直接言ったわけなのです。

それもダライ・ラマさんとの対等な話であるわけ。「ただ聞いてダンマの話をして、アーできた」なんてお話にならないわけ。何のために会いに行くのよ。「ダンマ」も教えてもらわずに。「ダンマ」を教えてもらうには、あなた方、本当に命を懸けて、ちゃんと教えてもらう対等な立場で行かなきゃ。「四界分別をはっきりやってください」と呼ばれて、私が「四界分別の分析方法は一体どういうふうにし

¹ 四無量心（慈悲喜捨）の瞑想。慈・悲・喜の瞑想は第三禪定まで、捨の瞑想は第四禪定まで行ける。

² 34頁・脚注2参照。

てやりますか」と。

その彼（リカルド・マイケル）が龍樹菩薩の哲学の『智度論』¹をパーッと言い出すわけ。韓国人たちはびっくりしてしまって、「【水源師】四界分別の方法はいかに」と言ったら、回答にパーッと詰まってしまった。

実態でいくから。それを本の哲学でやり合ったらコテンパン。ソクラテス、アリストテレス、プラトン、三段論法の本家本元で、東洋の理論でどうして戦えるのか。戦うには実態しかないでしょう。

それを結局「スリランカは経典仏教だ」と、とんでもない。スリランカは実体としてはもう「実践仏教」やっていますよ。「いかにして人を助けるか」と。非常に深い行法をもっていました。

だから、それももたずにして「これが日本仏教」で「あれが日本仏教で」と、また第二次世界大戦やるのですか、日本を。大変なことになりますよ。

この前の2月15日、プーチンがもうクルーズミサイル原発をアメリカに向けて発射したからね。そうなったら、ほぼ全世界が打ち上げやるからね。一瞬にしておしまい。

だから、仏法に携わっている者は、ここまで見て「いかにして世のため人のためにそれを防ぐか」と。今思ったら、私はこういうことをやらせてもらったのは、天界の何らかの意味があると思いますね。

ローマ法王が今、離散して、世界的にも大変な精神界の状態に入っているわけなのです。だから、ここでやはり揺るがないのは「本当のダンマをいかにして皆さんにつかませること」。

このことは、パオセヤドーも「そのとおり」。また、通度寺という過去2000年の伝統を誇る大和尚さんも「そのとおり。そのままやってください」と。はっきり言って、マハーヤーナ（北伝）とテーラワーダ（南伝）の二大頭領が、私に「OK」を出しているのですからね。

まさにダライ・ラマさんと直接こういうふうには話をして「四界分別やってください」と。あなた方の中で、そういうことを話した方いますか。いろいろな話はあるけれども、ここまで言った本を見たことないですが。ここまで言わなければ、皆さんが本当に迷いの世界に入っていきますね。

だから、どういう人でも本当の法を求めたら、対談に行って話してみなさいと。それには力をつけて。じゃなければ失礼だけでも、こういうことはパオセヤドーに話したって、すぐ避けられて「次」となってしまう。

¹『大智度論』：龍樹の著作とされる書で、『摩訶般若波羅蜜經』（大品般若經）の百卷に及ぶ注釈書。初期仏教からインド中期仏教までの術語を詳説する形式になっているため、仏教百科事典のように扱われることが多い。

だから、法を本当にしっかり求めて話をしなければ、相手は一目見たらすぐ分かりますよ。私がパオセヤドーのところに行って、いたら数分間、私をジーっと見ていましたからね。ずうっと見て、それで「もうどこまで行っているか」分かるわけです。

だから、「スニャータ・空をいかにして早くつかむか」が、決定的な要因であるから、第六祖¹がそこをまっすぐに進めたわけです。達磨大師はやはり正課で「アナパナ」もちゃんとやっているわけ。それも非常に難しいと、今から 1500 年前。

だから、5 代目²までそれをやったけれど、六番目の六祖大師から道教³というか、道教も実は「密教の真髓」だと思う。

「胎蔵界・金剛界」⁴、その原型を見たらプラオサン⁵といったか、小さいお寺で、そこで「胎蔵界・金剛界」の同じサイズの建物があって「比丘・比丘尼」になって、「アーこれから道教の方に入ってきたかも分からない」と。「陰・陽」の関係。

「これが日本仏教」と言うのであれば、もちろん密教、大乘、それから禅であれば『達摩多羅禅経』を読めば、テーラワーダも知らなければいけないと。それでいって初めて「日本仏教」、一つだけやって哲学やってお話になりませんよ。

結局、今回、韓国でリカルド・マイケルに「四界分別の分析はいかにするか」と、詰まってしまって回答できない。あらゆる哲学の情報で回答してくれるけれども、実践でいったら一つも回答できない。それでどうして「慈悲の瞑想」を教えられますか。ただイメージーション、イマジナリーメッタと実際は全然違います。

結局、「この大宇宙は慈悲の世界そのもの」なのです。だから、「大安心して、まっすぐに、いかにしてダンマを求めて精進してください」ということ。自動的にそちらに向かいますから。

だから、それを見ないから「菩薩行とか」いっぱい言うけれども、もうすべてが菩薩界の中で生きていますからね。「大宇宙は慈悲そのもの」。観音菩薩の大世界・大理想世界の中に私たちはいるわけなのです。

¹ 慧能(大鑑)禅師(638-713): 中国禅宗第六祖。范陽(北京市)の盧氏出身の禅僧。

² 弘忍(大満)禅師(602-675): 中国禅宗第五祖。黄梅県(湖北省)出身。(『宋高僧伝』では、または淮左潯陽(江西省)の出身と言われる)

³ 中国三大宗教(三教一儒教・仏教・道教)の一つで、中国漢民族の伝統宗教。黄帝・老子を教祖と仰ぐ。古来の巫術や老荘道家の流れをくみ、これに陰陽五行説や神仙思想などを加味して、不老長生の術を求め、符呪・祈祷などを行う。

⁴ 2 頁・脚注 1 参照。

⁵ Candi Plaosan (チャンディ・プラオサン): インドネシアのプランバナナ寺院軍から北東約 2km 地点にある。プランバナナ寺院群の一つで、9 世紀中期に建立された仏教遺跡。

観音様といえば、必ず阿弥陀様を乗せています。だから、そういう体験をすれば、経典仏教とは視点が変わってくるし、楽しくなるし、また、そういう世界に行けるわけなのですね。

ところが、経典仏教では、その世界の行き道を全然書いていない。どうしたら行けるか。ここからニューヨークに行くのに、お金もいる、時間もいる、それから切符もいります。ニューヨークの情報も必要です。ただ「ニューヨーク、ここに行きましょう」と。というふうなことを往々にしてやっていますね。

これからは「本当の精神界」が大切です。「精神界」というのは「自分も磨き、人もそれによって恩恵を受けていく」と。結局、「病院にいる末期のがんになった方にはどうしたらよいか」とか、そういう事細かな実践ですね。

「生きている」という、このことは非常に尊いことで、本当に「仏陀はあなたそのもの」なのだけれども、それを理解するのができない迷い、これが私たちの現状なわけ。それで「自殺」とか「いじめ」とか無駄なことをして、ますます暗くなっていっているのだけれども。

言葉で回答は簡単ですよ。「それを本当に体得するかしないか」、そして「体得するにはどうしたらよいか」ということを、お釈迦様が『サティパターナ』で、「カーヤヌパサナー（身随観）、ヴェーダナヌパサナー（受随観）、チッタヌパサナー（心随観）、ダンマヌパサナー（法随観）」、ちゃんと書いてあります。

「そこに行けばアナーガーミ（不還果）¹の境地に入ります」と。明快に書いてあります。あとはやるだけ。「実践」。



パンニャバロ長老と有縁の方々と一緒に

¹ 四向四果(預流、一來、不還、阿羅漢)の一つで、人間に生まれることなく、梵天界（初禪天）から阿羅漢果を成就する段階。阿那含果ともいう。

水源禪師法話集 21

(2013年2月23日 東京法話会)

2013年10月2日 発行

編集兼発行 一乗会